ライオン誌（毎月20日発行）第53巻第2号 2010年7月20日発行 第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP AUGUST 2010 8

シドニー国際大会

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第1刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第1刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部
●ウィ・サーブ ……………………　部
●ライオニズムよ永遠に …………　部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 ……　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

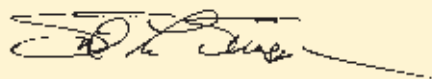
THE LION MAGAZINE IN JAPAN
August 2010, Vol.53 No.2

We Serve CONTENTS

2010年8月号　表紙
シド・L・スクラッグスⅢ世
国際会長夫妻

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

あなた自身をもう一度ライオンズに捧げよう

私はライオンズの奉仕がどれほど人々の人生を変えることが出来るかを知っています。しかしそれはまた、ライオンであるあなた自身の人生を変えることにもなるのです。私の友人に元医師だった人がいます。彼がライオンズに入る前のことですが、私たちは子どもたちに感情面や身体面でのチャレンジを促すようなライオンズ事業に、彼を巻き込みました。この日、彼は子どもたちの優しいおじいさんのように彼らの支えとなり、食事をさせ、世話をしていました。子どもたちを手助けしたその体験がいかにすばらしいものだったかを、彼は感情を込めて私に話してくれました。これまでの彼の人生は手術によって人々の体を治療するのみでした。しかし今や、彼は人々の心のニーズに出会う喜びを知ったのです。

今年度、私は会員の皆さんに、自分自身をもう一度ライオンズの手づからの奉仕活動に捧げ直してみることをお願い致します。より深くかかわり、人道奉仕への関心を高め、新しい責任を引き受けてください。新会員をスポンサーし、出来得る限り最高のライオンになってください。単なる集団の中の一人として甘んじていてはいけません。

ライオンズの活動を推し進めていくために、私は各地のライオンズが四つのグローバルな奉仕活動キャンペーンに参加されるよう強調します。8月の国連青少年デーにイニシアチブを取れるような活動を計画してください。10月は世界視力デーを支援する視力関連事業（眼科検診や中古眼鏡収集、視覚障害者支援など）を実施し、祝祭日には飢餓撲滅のための食料収集及び配給事業を行ってください。来年4月の「アースデイ」には環境関連事業を支援しましょう。

皆さんはまた、私たちの新しい試みである、11〜13歳までの視覚障害児を対象とした作文コンテストにも参加してください。これは平和ポスター・コンテストと同じように、子どもたちに「平和が生み出す力」をテーマに作文を書いてもらいます。詳細はライオンズクラブ公式ウェブサイトをご覧ください（www.lionsclubs.org）。

1917年以来、ライオンズは希望の光であります。今年度、私たちはこの光をこれまでで最も明るく輝かせましょう。そのためには皆さんの協力が必要です。各自がベストを尽くすことにより、私たちは望まれる「より良い明日」を提供することが出来るのです。私たちの希望の光は、一人ひとりの奉仕をもって最大級に輝くでしょう。

私たちは奉仕します、共によりすばらしい明日のために。

2010-11年度国際会長
シド・L・スクラッグスⅢ世

THEME

シドニー国際大会

第93回国際大会は6月28日から7月2日、オーストラリア・シドニーで開催された。主会場となったのは、世界で最も美しいと言われる港湾の一画、ダーリング・ハーバーにあるシドニー・コンベンション&エキシビション・センターと、隣接するシドニー・エンターテインメント・センター。年に1度のライオンズの祭典に、世界中から1万2036人（大会登録者数）が集い、日本からはアメリカに次いで2番目に多い1723人が参加した。

取材／鈴木秀晃・河村智子

ARGENTINA

■シドニー国際大会：インターナショナル・パレード（6月29日）

年次報告をするエバハルト・ヴィルフス国際会長

オーストラリア総督クエンティン・ブライス氏による歓迎あいさつ

■シドニー国際大会：第1本会議（開会式／6月30日）

オーストラリア・ライオンズ児童モビリティ基金は、脳性麻痺の子どもたちに「ハートウォーカー」と呼ばれる歩行器具を贈り、子どもたちが歩いたり自転車に乗れる機会を提供している

Japan

1952, Tokyo

開会前に登場したジミー・マン、スコット・ドナルドソンによるピアノ・デュオ「Big Shots Duelling Pianos」は『ジェイルハウスロック』『スウィートキャロライン』『クロコダイルロック』など懐かしの名曲で会場を盛り上げた

代議員を前に国際理事立候補の演説をする台湾のライオンタールン・チャンと日本のライオン山浦晟暉(左)

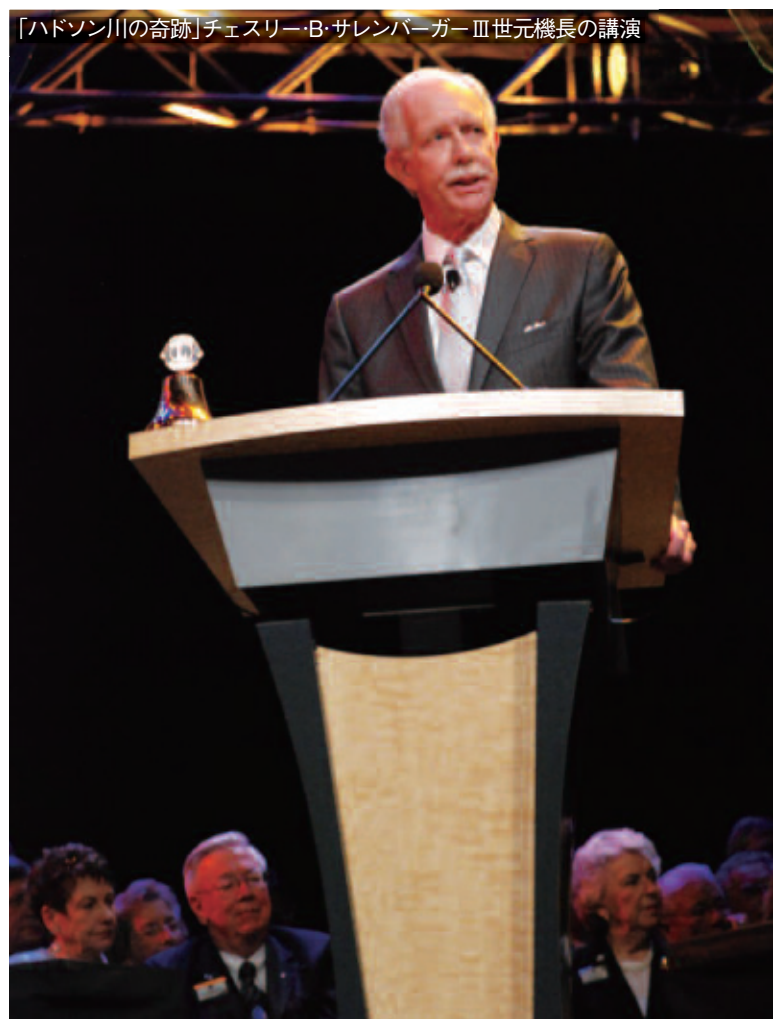
■シドニー国際大会：第2本会議（7月1日）

この1年間のLCIFの成果を話すアル·ブランデル理事長

ウェイン·A·マデン国際第2副会長候補

東洋･東南アジア地域のGMTリーダー

シド･L･スクラッグスⅢ世新国際会長夫妻

「ハドソン川の奇跡」チェスリー･B･サレンバーガーⅢ世元機長の講演

奉仕の心を熱く燃やした冬の国際大会

「誰かの人生に変化をもたらすことが出来たその時、皆さんはライオンになったと言えるのです。私たちは人道主義奉仕のグローバル・リーダーであり、後に続く人々の手本となり、より良い明日を築くために共に活動する組織です。この1年、私と共に『希望の光』となってください」

シドニー国際大会の閉会式で就任演説を行ったシド・スクラッグス新国際会長は、奉仕こそが、私たちがライオンである理由であり、喜びであると述べて、会場に集まったライオンたちの共感を呼んだ。ライオンズクラブの原点である奉仕に焦点を絞った1年のスタートである。

注目集めた「ジャパン」

国際大会が南半球で開かれたのは、1991年のブリスベーン大会に次ぎ2度目。長い歴史の中で、冬の国際大会は2度目ということだ。大会が開催された6月最終週、シドニーはこの時期としては記録的な寒さだったので、シドニーに降り立って思わず身を縮めた人も多かっただろう。開会式のあった30日朝6時の気温は4・3度で、60年ぶりの寒い朝だと報じられた。

大会期間中は毎日晴天に恵まれ、インターナショナル・パレードが行われた29日も雲一つなく晴れ上がった。午前11時にスタートしたパレードには、100カ国から143隊、約1万人のライオンズが参加。市民のオアシス、ハイドパークからオペラハウスへと向かう約2キロのルートを行進した。700人を超える大隊列の日本は、纏をあしらった紫の法被姿でミニ纏を手に行進。山浦晟暉国際理事候補者を支える330・A地区からは、江戸の粋を披露しようと留袖姿の女性メンバーと若手メンバーの纏持ちも登場し、沿道から「ジャパン!」の掛け声が上がった。

このパレードで、日本はユニフォーム部門第2位となったが、「ジャパン」に注目が集まる場面は、7月1日の第2本会議でもあった。ライオンズ人道主義大賞を贈られたケニアの環境保護活動家ワンガリ・マータイ氏が受賞スピーチの中で、日本の「MOTTAINAI(もったいない)」を紹介。日本では伝統的にリデュース(消費削減)、リユース(再使用)、リサイクル(再生

LCIFの災害救援テントを前にハイチのライオンズ

OSEAL地域のGMTリーダー、地区ガバナー・エレクト会議

6月29日に開催されたジャパン・レセプション

リーダーシップ・セミナー

7月2日、投票を前に資格審査のブースに並ぶ日本の代議員

国際本部により日本向けに開催された地区行政に関する説明会

投票所

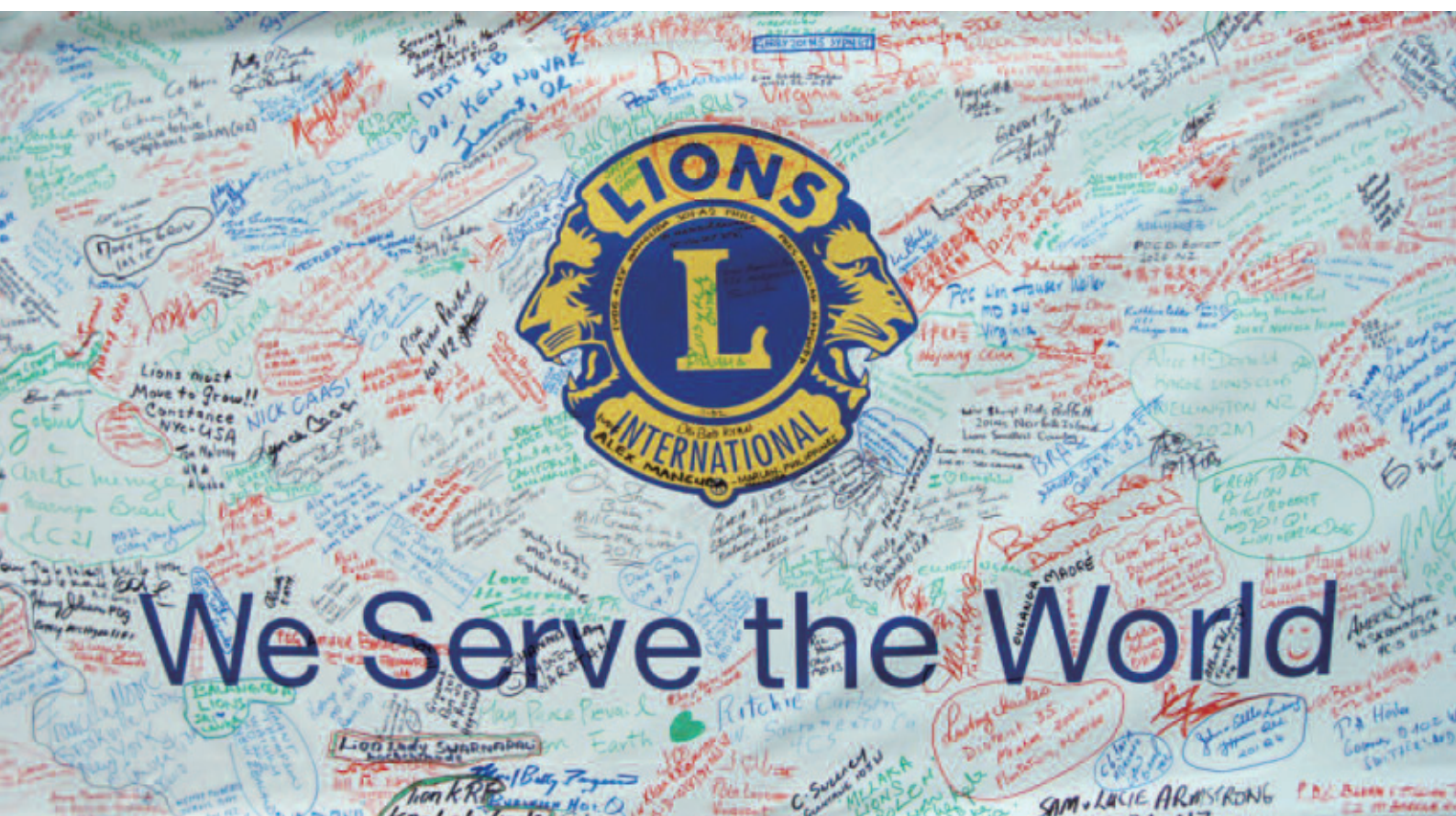
国際平和ポスター・コンテスト最優秀賞作者によるサイン会

スペシャルオリンピックス･オープニングアイズ･プログラム

毎年、大会サービス･センター内で開催されている、糖尿病教育のためのウォーキング大会には、今年も各国のライオンズやレオ、家族らが参加した

眼鏡リサイクル･センターの一つ、ライオンズ･リサイクル･フォー･サイト･オーストラリアのブースには大会参加者が持ち寄った眼鏡がうず高く積み上げられていた

大会サービス･センターにはさまざまな商品の販売ブースが出店しており、それを見て歩くのも楽しみの一つ

7月1日に開催された銀杏賞晩餐会では出席者が一緒になって楽しめるショーも用意され、大いに盛り上がった

利用）が行われており、そこにリスペクト（尊敬）が込められていることが重要だと語り、リサイクル素材で作られた美しい風呂敷を披露した。

MOVE TO GROWの1年を終えて

国際大会は新国際会長の船出であると共に、任期を終える会長の総括の時でもある。開会式でエバハルト・ヴィルフス国際会長は、この1年間を「成長と革新の年」と振り返った。ヴィルフス会長はまず、会員増強の大きな成果を報告。その要因の一つは、グローバル会員増強チーム（GMT）と地区ガバナー・チームの二つのチームワークだとした。更にもう一つの要因に挙げたのは地域重視型のアプローチで、東欧における会員の増加や、中国の飛躍的な成長ぶりに触れた。アクティビティに関しては、特に青少年育成への注力を強調してきたが、その集大成とも言えるのが、30日夜に開かれた国際青少年音楽コンクールのコンサートだ。各会則地域の予選を勝ち抜いた9人の若者が出場し、優勝はアメリカの16歳、ブライアン・ジェレミー・アレンさん。翌日の第2本会議ですばらしい演奏を披露し、ヴィルフス会長は「将来はきっと世界を舞台に活躍してくれるでしょう」とたたえた。

1年前、国際会長就任直後のステージでマルギット夫人の入会式を行ったヴィルフス会長は、今大会でも3人の会員のスポンサーとなった。一人目はワンガリ・マータイ氏、二人目は閉会式で講演を行った「ハドソン川の奇跡」の元機長、チェズレイ・サレンバーガー氏、三人目は地元シドニーの女性。それぞれの胸にライオンズのピンを付けて、「MOVE　TO　GROW」の1年を締めくくった。

◆

大会最終日4日は朝6時から代議員投票が行われた。今大会の代議員登録は3764人、補欠代議員は232人。日本の代議員登録は、アメリカの925人に次いで多い520人だった。投票の結果、国際第2副会長にはライオンウェイン・A・マデン（アメリカ・インディアナ州）を選出。2010～12年国際理事には、日本のライオン山浦晟暉を始め候補者全員が必要な得票数を得て当選した。また、国際会則の国際会費に関する条項を国際付則に移す改正案は、3分の2以上の賛成で可決された。

閉会式の最後には、「エレクト」のリボンを外して地区ガバナーが就任。シアトルでの再会を期して、大会の全プログラムを終了した。

地区ガバナー・エレクト・セミナー

2010年6月26日〜28日
オーストラリア・シドニー

地区ガバナーは国際役員として、また地区の運営責任者として大きな責任を担う。その1年のスタートを前に、大会開会前の6月26日から28日の3日間、シドニー・コンベンション＆エキシビション・センター（SCEC）で、地区ガバナー・エレクト（DGE）セミナーが行われた。

26日の開会式では、シド・スグラッグス国際第1副会長が「『ウィ・サーブ』は私たちの生き方そのもの」と、奉仕への情熱を語った。その後、DGEは使用言語ごとに28のグループに分かれて受講。日本語グループのリーダーは後藤隆一元国際理事が務めた。

セミナーには、コミュニケーションやチームワークの重要性を再確認するセッションや、会員増強について考えるワークショップなどが組まれている。国際会長プログラムに関するグループ・ワークショップ「希望の光」は、「奉仕とは何か？」という後藤リーダーの問い掛けに始まり、クラブの活動状況の事例についてディスカッション。地域を巻き込んだアクティビティの好例や、マンネリ化した継続事業の見直しなどが発表された。

最終日には初めての試みとして、他のDGEグループと意見交換する「課題と機会」のセッションが行われた。日本語グループはOSEAL地域内の英語グループと合流し、5テーブルに分かれて、「メンバーシップ」「視力ファースト」「女性と若手の会員増強」「エクステンション」「PR」のテーマでディスカッションを行った。英語グループは、フィリピン、マレーシア、シンガポール、タイ、グアム、インドネシア、香港のDGEたち。慣れない通訳を通しての話し合いで、初めはやや戸惑い気味だったものの、共通する課題について意見を交換したり、若手リクルートの斬新なアイデアが出されるなど、日本のDGEは大いに刺激を受けた様子だ。

セミナーを終え、国際大会閉会式で就任した2010-11年度地区ガバナーは、世界で742人（うち女性は160人）。日本では歴代2人目となる女性地区ガバナーも誕生し、新年度のスタートを切った。

G'day g'day, how ya goin',
what d'ya know, well strike a light
G'day g'day, and how ya go-o-o-in'
Just say g'day g'day g'day and you'll be right

各種アワード、コンテスト表彰

人道主義大賞

2010年のライオンズ人道主義大賞は、貧困対策と環境保護を目的とした草の根組織「グリーンベルト運動」の創設者で、アフリカ人女性初のノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイ氏（ケニア）が受賞。7月1日の国際大会第2本会議で賞金20万ドルと共に授与された。

国際銀杏賞

協会を前進させるために必要な才能を発揮し、ライオンズの未来に必要な種をまいたライオンをたたえる賞。7月1日に開催された銀杏賞晩餐会で表彰が行われた。日本からはLCIF献金最高額地区のカテゴリーに330・B、334・A、335・Bの各地区がノミネートされ、334・A地区が受賞した。各カテゴリーの最優秀賞は左記の通り。

■「MOVE TO GROW」の実践＝ルシエン・カナリ（グアドループ・ドアイヤン ライオンズクラブ／グアドループ）

■クラブ奉仕事業＝ショーソンヒルライオンズクラブ（中国・香港）

■地区奉仕事業＝355・A地区（韓国）

■新設ウェブサイト（地区）＝324・E2地区（インド）

■LCIF献金最高額（クラブ）＝カマリロ・ソミス・プレザント・バレーライオンズクラブ（アメリカ）

■LCIF献金最高額（地区）＝334・A地区（日本）

■女性会員最多入会（クラブ）＝コルバ ライオンズクラブ（インド）

■女性会員最多入会（地区）＝323・H1地区（インド）

国際青少年音楽コンクール

才能ある若手音楽家を励ますために今年度から国際青少年音楽コンクール

が始まった。今年の課題楽器はバイオリン。シドニー大会で各会則地域から選ばれた7人の候補者による演奏が行われ、入賞者が決定。それぞれ1万ドル、7千ドル、3千ドルの賞金が贈られた。

■1位＝ブライアン・ジェレミー・アレン（アメリカ／アメリカ及びその周辺代表）

■2位＝ソフィー・ローザ（イギリス／ヨーロッパ代表）

■3位＝アーロン・チャン（中国／東洋・東南アジア代表）

2010年度国際コンテスト

シドニー国際大会で2010年度国際コンテスト結果が発表された。日本からは交換ピンのクラブ部門で高山岳城ライオンズクラブ（334・B地区）が佳作に選ばれた。各部門の1位は左記の通り。

■ニュースレター：クラブ＝バーナビー・ラチェッドライオンズクラブ（カナダ）／地区＝107・D地区（フィンランド）

■交換ピン：クラブ＝アンドレス&ボカ・チャイナ ライオンズクラブ（ドミニカ共和国）／地区＝24・D地区（アメリカ・バージニア州）／複合地区＝25複合地区（アメリカ・インディアナ州）

■友好バナー：クラブ＝チェサピーク・サウスサイド ライオンズクラブ（アメリカ・バージニア州）／地区＝14・H地区（アメリカ・ペンシルベニア州）

■ウェブサイト：クラブ＝香港セントラル ライオンズクラブ（香港）／地区＝307・B地区（インドネシア）／複合地区＝35複合地区（アメリカ・フロリダ州）

インターナショナル・パレード・コンテスト

6月29日に行われたシドニー国際大会のパレード・コンテストで、各部門の1位は左記の通り。日本は第1部ユニフォームで第2位を受賞した。

▼第1部

■フロート＝108複合地区（イタリア）

■バンド：カテゴリーI 高校生バンド＝201複合地区（オーストラリア／ノーフォーク・アイランド／パプア・ニューギニア）ミレニアム・ハイスクール・バンド／カテゴリーII州選抜バンド＝30複合地区ミシシッピ・オールステート・バンド

■ユニフォーム＝352地区（エジプト）

▼第2部

■バンド＝354、355複合地区（韓国）ハンター・スクール・オブ・パフォーミング・アーツ・ハイスクール・バンド

■均整行進隊＝321～324複合地区（インド）ブラックタウン・シティ・パイプ・バンド

LCIF表彰

6月30日に行われたMJF昼食会で北海道・札幌フロンティア、愛知県・名古屋東、同・一色、京都みやこの各クラブが100％MJFクラブ、北海道・札幌グリーン ライオンズクラブが200％MJFクラブ、ライオン山浦晟暉（東京新宿ライオンズクラブ）がヒューマニタリアン・パートナーシップのブロンズ（10万ドル献金）表彰を受けた。

環境写真コンテスト

世界の複合地区から応募があった最優秀作が国際大会サービスセンターに展示され、大会参加者が投票を行った。年度ごとの特別テーマは「ライオンズMOVE TO GROW グリーン」で、ライオンズの環境保全事業に取り組む会員の姿をとらえた写真。日本から出品の4作品も展示された。

■最優秀賞＝カーティス・マーレイ（アメリカ）

■風景＝デニス・フォスター（アメリカ）

■動物＝カーティス・マーレイ（アメリカ）

■植物＝ロバート・クラリー（アメリカ）

■気象現象＝ペイビー・マッカネン（フィンランド）

■特別テーマ＝バーディー・トンプソン（アメリカ）

国際理事活動報告

杉本忠夫（北海道・札幌ライラック）

回想

2008年7月、タイ・バンコクで開催された国際大会で国際理事に選出されました。新理事、2年理事合わせて34人の自己紹介に始まり、オリエンテーションでのレクチャー、証として理事ピンを頂き感激した記憶が、今なお鮮明に我が身に残っております。

その後の理事会では、日本から選出されていた2人の先輩、後藤隆一、栢森新治両国際理事（当時）から多くの教えを受けました。所属委員会ではその進行に慣れるまでに多少の時間を要しました。また、理事会並びに協会の動向をじかに知ることは新鮮な体験でしたが、これまでの歴々とした理事の方々も通過した道であったかと感慨深く思いました。

日本ライオンズは太平洋戦争終結間もない1952年、フィリピンのマニラライオンズクラブのスポンサーにより東京ライオンズクラブが結成され、産声を上げました。当時、ライオニズムを実感するには多少の時間を要したかもしれません。が、世界の平和を願うこと、更に弱者救済等多くの奉仕を理解し、恩讐を超えてフィリピン国の心温まる親切な行為を受け入れるに至ったことは皆様もご承知のことでしょう。

小さな一灯だった我が国のライオニズムが、相互理解の下、やがて国を照らす万灯となっていきます。その灯は西へ東へと燎火のごとく広がり、2年足らずの53年には国際協会で暫定地区が承認され、これを契機に日本ライオンズは成長、発展を遂げていきました。その功績は50有余年の歴史が証明しております。

さて、私の任期中に印象に残ったことの一つは、ロブレスキー元国際会長の国連へのライオンズ連絡員就任20周年記念行事です。国連事務総長の記念講演他、セレモニーがあり、国際理事として一層の充実感を味わいました。また、01年9月11日のアメリカ同時多発テロによるビル倒壊の様子をパネル等で拝見し、想像を絶する悲惨な情景に、テロへの恐怖と憎しみが込み上げた瞬間でもありました。

ニューオーリンズでの理事会では、ハリケーン禍によるミシシッピ川の堤防決壊で被害を受けた街の様子を目の当たりにし、大自然の脅威を実感しました。4年の歳月を経てなお、居住困難な状態の家屋が多数残され、多くの人々が、新築のための資金が調達出来ず他地区での居住を余儀なくされていました。

ハワイ・マウイ島では、ゴルフコースを横目にプレーするのもかなわぬ状況で、終日の会議に臨みました。ハワイ・メンバーの中には日系2世、3世、4世の方もおり、故郷を懐かしむ先輩ライオンと親しくコミュニケーションを取ることが出来ました。

この2年間を共に過ごした世界の理事並びに本部職員の方々、貴重な体験、多くの知己を得たこと、生涯忘れることは出来ません。

更に私の任期中に、北京にライオンズの暫定地区が誕生し、式典には日本から50人近くのメンバーが激励に駆けつけました。中国は若い年齢層、特に女性メンバーが多いのが特徴で、今後、協会にとっても重要な存在になることが期待されます。

これからのライオンズ・メンバーは国際的視野を広める必要があると一層強く感じています。日本の皆さんも国内はもとより、機会があるごとに国際組織としてのライオンズに目を向け、経験を積んでください。

終わりに、2年間の皆様の温かいご支援、ご指導に感謝申し上げます。

「人生が荒れ狂う嵐に襲われ、暗闇に包まれた時
夢がしおれ、絶望に見舞われた時
遠く離れた海岸に立つ忠実な灯台のように
ライオンが一筋の光となって、道を示している」

国際会長テーマ・ソング「希望の光」より

希望の光

私が住むノースカロライナ州のアウターバンクスには世界一高い、煉瓦造りの灯台があります。1807年に建てられたハッテラス岬灯台は、2世紀以上にわたり、船乗りのための希望のシンボルとして存在してきました。大西洋海流が流れるこの地域は、ハッテラス岬の沖を除き、絶好の航路でした。このすぐ近くではメキシコ湾の暖かい海流と冷たいラブラドル海流がぶつかり合います。これが海に激しい暴風雨を起こさせ、大波をうねらせる条件を作り出します。ハッテラス岬の灯台は、望みをすべてなくしたと思った何千人もの船乗りに進むべき方向を指し示し、船を安全な港へと導きました。

現代の船舶には最新の航行補助器具があり、衛星システムが搭載されているにもかかわらず、灯台は今もなお世界中の海岸で光を発しています。時を超え、進路が分からなくなった人々や助けを必要とする人々の希望の象徴となり続けています。かつて灯台の最上部で手作業によりランプを照らした灯台守はとうの昔に機械に取って代わられましたが、その明かりは今なお重要です。

ヘレン・ケラーは困っている人々に明かりをもたらす手助けをしてくれるよう、ライオンズに求めました。私たちはその呼び掛けに、他のどの組織もかなわない規模で応えました。そしてライオンズの奉仕の明かりはこれまでに増して今日も更に重要なものとなっています。もちろん、テクノロジーのおかげで私たちの暮らしは一層便利になっています。また、生活の質を高めるだけでなく、多くの場合、人類を苦しめてきた病気の根絶をも可能とした医学の進歩を誰もがありがたく感じています。しかし、私たちの暮らしを向上させてくれた進歩は語り尽くせないほどたくさんあるにもかかわらず、人と人との交流の必要性に取って代わるものはないのです。奉仕をしようと差し出される手の代わりとなるものは一切ありません。

ボランティア活動という確固たる土台の上に築かれたライオンズクラブ国際協会は、1917年以来、恵まれぬ人々に希望をもたらしてきました。私たちの歴史を通じてライオンズは暗闇と絶望に閉ざされた何百万もの人々が健康で幸せな生活を送れるよう光を照らしてきました。ライオンズの会員一人ひとりが一筋の光を放っています。それは、それぞれの目に、笑顔に、そして行動に見て取ることが出来ます。

「別の魂から発せられた一筋の光が、私の心を閉ざしていた暗闇に射しました。そうして私は自らを見つけ出し、私を封じ込めていた暗くて音のしない囲いから抜け出すことが出来たのです」
ヘレン・ケラー

これからの1年間、共に航行していくにあたり、途中で思いがけない障壁や岩だらけの海岸線、嵐、荒波に直面する可能性もあるでしょう。しかし、206カ国に130万を超える灯台があります。行き先を照らし続けるライオンズの会員たち、希望の光となり続けるライオンズの会員たちがいるのです。

皆さんの会長としてお願いします。奉仕の光を明るく輝かせてください。共に、恵まれぬ人々そして安全な場所とより良い明日を探し求めている人々のための光と希望の象徴となり続けようではありませんか。

シド·L·スクラッグス III世
国際会長

「ライオンズこそ、より良い明日をもたらしてくれる人たちだと人々が頼りにしていることを、私はライオンズに気付いてほしいのです。ライオンズは希望の光なのです」
シド·L·スクラッグスIII世

奉仕の光になろう

私たちの成功のカギは大きな影響を与える奉仕事業

「130万人のライオンが新たな決意の下に奉仕を行えば、世界中の困っている人々に莫大な影響をもたらすことが出来るでしょう」
シド・L・スクラッグスⅢ世

私たちのモットー「われわれは奉仕する」は、私たちの使命を定義するものであり、私たちの組織の中核原理です。今年度、私たちは奉仕への決意を新たにします。事実、奉仕は私が会長を務める2010‐11年度のテーマの中心となります。ボランティアとなる方法を探し求めている人々が増えている中、今こそライオンズが奉仕に光を当てるチャンスです。

実地参加型の奉仕は、直接人々の心をつかむ光を照らします。実際のところ私たちはそれを見てきていますし、アンケート結果やフォーカス・グループによる討議を通じて、「参加型」奉仕や奉仕の対象となる人々との直接の触れ合いが、これまでになく一層重要になっていることが分かっています。

人はさまざまな理由でボランティア活動を行いますが、主な理由は、世の中をよくしたいという願いからです。人生において何が大切であるかを自問し、自らの時間をどのように費やしたいかを見直しています。そして地域社会での奉仕や他の奉仕の機会に目を向けています。私たちは、ボランティアの時間を尊重し、それが最大限の成果を上げるために使われるようにしなければなりません。

2010-11年度における主要奉仕戦略

グローバル奉仕実施キャンペーン

大成功を収めた「ライオンズ・イン・サイト」プログラムの延長として、今年度ライオンズには四つの「グローバル奉仕実施キャンペーン」への参加が奨励されます。青少年に光を照らすため、8月の国際連合「国際青少年デー」に合わせてプログラムを企画することがライオンズに呼び掛けられます。その他の機会として挙げられるのは、予防可能な失明に光を照らし、10月のライオンズ独自の「世界視力デー」を支持する事業を行うことや、飢餓に光を照らし、クリスマス、ハヌカー、イード・アルファトル、ディーワーリーなどの伝統的な祝祭日、その他の適切な時期に、困っている人々のために食べ物を集めることなどです。そして最後に、4月の「アースデイ（地球の日）」を支持して環境保全事業や活動を実施することにより、環境に光を照らすことがライオンズに呼び掛けられます。「グローバル奉仕実施デー」は、どうすればそれぞれの地域で援助を行うことが出来るかについて、独自の視野を広げる機会をライオンズに与え、私たちが提供している奉仕に一層注目させるものとなります。

ライオンズ・グローバル奉仕サミット

私たちは地域社会奉仕において世界を率いるリーダーです。そうであるからには、ライオンズクラブ国際協会以外に世界的な奉仕サミットを主催するにふさわしい組織が他にあるでしょうか？

今年度第3四半期中、他の奉仕団体やボランティア組織のリーダーは、奉仕における最新の動向について討議し、考えを共有するべく、ライオンズの国際本部でサミットを開催するよう依頼されます。

報告手段の向上

ライオンズクラブ国際協会のウェブサイトのデザインが新しくなり、情報のやりとりがトップダウンでもボトムアップでも、より容易に出来るようになりました。データベースが新たに強化されたことから、今ではクラブが自慢の看板事業を報告し、事業の成果を記録することが簡単に出来るようになっています。そしてこの情報は他のクラブとも共有することが可能です。クリック一つで他のクラブとつながることが出来るのです。また、私たちは世界中のクラブのデータを用いて、「奉仕状況」報告書の作成も行っていきます。この報告書は、私たちが社会に及ぼしている影響を素早く示してくれるものとなります。

現地から生中継…

ライオンズによる、Facebook、Twitter、MySpace等のソーシャルメディアの利用が大いに増えています。これまで以上に多くのライオンが互いにつながり合い、ソーシャルメディアを利用して自分たちの行事や事業を推進しています。今年度新しく登場するのは、国際会長のブログです。そうです。私が毎週ブログを書いていきます。

世界各地で直接見たライオンズの活動についてです。 私が公式訪問をしている期間中、私の訪問に合わせて奉仕事業を行うよう、ライオンズにお願いします。私が「現場」に派遣されたレポーターとなって訪問先のライオンズとその事業を、世界中の他のライオンズ、そして彼らの事業やアクティビティと結びつけるわけです。

私たちのストーリーを伝える

大いに光輝かせよう！

「自分たちは町中でいちばんの秘密」とライオンが言うのを、私たちの誰もが一度は耳にしたことがあるはずです。そう言っていればそうなりますし、そもそも事実ではありません。ですから、私はライオンズの皆さんにこのような表現を頭から抹消するようお願いします。

なぜ私たちが自分たちのストーリーを他の人々と分かち合うことが重要かと言いますと、それはニーズが世界中で増え続けているからです。こうしたニーズにこれからも対応していくためには、会員を増やすことが不可欠です。そのために私たちはライオンズクラブ国際協会のブランド――私たちが誰であり、何をし、何のために存在するのか――に対する社会の認識を高めなければなりません。

ライオンズクラブ国際協会には、どの奉仕クラブ組織よりも広範で、功を奏しているPRプログラムがあります。昨年度だけでも、ライオンズの活動を報道する記事が世界各地で8千件以上新聞に掲載され、テレビでは700回以上ニュースとして放映されました。今では無数のクラブが積極的にPRプログラムを設け、テレビやラジオでの刷新的な公共広告や大型の屋外掲示板を使っての広告だけでなく、ソーシャルメディアをも利用して、クラブのメッセージを伝えています。とはいえ、世界規模のプログラムがどんなに大きな成功を収めようとも、それは協会の全体的なイメージの一部のみを明らかにしてくれるにすぎません。

人々は「ライオンズクラブ国際協会」に入会するのではありません。ライオンズクラブ、そう、あなたのライオンズクラブに入会するのです。良いイメージは、会員となる可能性のある人や支援者に自分たちのクラブのことを良く思ってもらう上で役に立ちますが、地元における積極的かつ功を奏する広報活動だけが、時間を割いて奉仕しよう、寄付をしよう、入会招請を受け入れようという気持ちにさせるのです。

クラブと地区を支援するため、協会はウェブサイトに新しい電子図書館、つまり「1カ所で用が足りる」セクションを設けました。ここには功を奏するPRプログラムを行うのに必要なものがすべてそろっています。

アクセス件数が毎月増え続ける中、デザインが新たになったライオンズクラブ国際協会のウェブサイトは今や、情報を見つけ出し、他のライオンとつながるための最も手っ取り早い方法です。ウェブサイトを閲覧してください。そして慣れ親しんでください。情報を素早く見つけるためには検索エンジンを使ってください。

成功を収めるPRプログラムを企画する方法についての詳細はウェブサイトwww.lionsclubs.orgをご覧ください。

奉仕事業とPR活動は、切り離すことは出来ません。クラブ自慢の看板奉仕事業の一つに地元の報道機関を招き、関心を引いてください。また、ソーシャル・ネットワーキングやYouTubeを通じて事業を宣伝することにより、地域の人々を引き込むのです。

「自らの行動をもって、他の人々により大きな夢を抱かせ、より多くを学び、より多くを成し遂げ、人として成長しようという気持ちにさせることが出来る人こそ、リーダーである」
ジョン・クインシー・アダムス

有能なリーダーは行く先を照らす

奉仕事業を通して会員は、実用的なスキルを身につけます。それぞれの事業が多くの人々の暮らしを改善すると同時に、ライオンズの会員にリーダーシップを身につけ、磨く機会を提供するのです。

私たちは新しい指導者の育成に極めて大きな成功を収めており、今後も指導力育成の機会を重視していきます。ライオンズの次世代のリーダー育成に責任を持つことで、私たちの協会の将来が活力に満ちたものとなることを確実にする必要があるのです。

成功を収める指導力育成のカギ

- 指導力育成の機会について、新会員及び会員となる可能性のある人に伝える
- 指導的責任を担うよう、いろいろなライオンに奨励する
- 新会員の「ライオンズ・メンター・プログラム」への参加を促す
- ゾーン・チェアパーソン、第1及び第2副地区ガバナー、地区ガバナー・エレクトを対象とする実用的な実務研修を実施する
- 地域で行われる研修プログラム、ライオンズ・リーダーシップ研究会、講師育成研究会への参加を奨励する
- オンラインでの育成の機会を重視する
- 優れた指導力を発揮したライオンの努力及び功績をたたえる
- 地区や複合地区レベルで革新的な研修及び教育プログラムを企画する

これをお読みのあなたは入会したばかりの会員かもしれませんし、既にリーダーを務めたことのある会員かもしれません。どちらにせよ、ライオンズの指導力育成プログラムに自ら参加し、同時に推進するよう、強くお勧めします。自ら進んで、ゾーンやリジョンの会議、そしてクラブ役員研修会に出席することを申し出てください。そして地区大会、複合地区大会、更にはエリア・フォーラムにも出席してください。役職を引き受ける意思があることを示してください。

既にクラブまたは地区の役員であるならば、他のライオンにも同じく指導職に就くよう奨励してください。そしてライオンズ・リーダーシップ研究会や講師育成研究会への参加を促すのです。オンラインでの指導力育成の機会をこれまで以上に強調してください。ライオンズ学習センターは数々の対話型のオンライン研修コースを取りそろえており、知識を増やしながらライオンとしての経歴を積み上げていくのに大いに役立ちます。

指導者となる新たな機会を追求し、磨き上げた優れた指導力を発揮してください！

「最終的には、自分が何を学んだかではなく、何を教えたか、自分が何を得たかではなく、何を与えたか、自分が何をしたかではなく、他の人が物事を成し遂げられるよう自分が何をして助けたかです。そうしたことが人の人生を豊かにし、おのずと自分の人生も充実したものとなるのです」
シド・L・スクラッグスⅢ世

私たちの将来は明るく輝く

今日の若者は明日のリーダーです。私たちは、ティーンエージャーや若年成人とのコミュニケーションをより上手にとる必要があります。将来への道を照らす光ほど、明るく輝くものはありません。私たちの将来です。

今日ほど若い世代がそれぞれの地域社会に関与していることはこれまでありませんでした。アメリカだけでも、17歳から25歳の若者の15%がボランティア活動を行い、地域に奉仕をしています。世界の他の地域においてはその率は更に高いのです。私たちが若者にライオンズのメッセージをどう伝えるかが、若者がライオンとしてボランティア活動をするようになるかどうかの決め手になります。

世間一般に信じられているのとは反して、若者は異なる言語を話したりはしていません。しかし異なるコミュニケーション手段を使うことは確かです。彼らはコンピューター、iPhone(アイフォーン)、携帯メール、チャットの他、あらゆる手段によるソーシャルネットワーキングの世代です。私たちのメッセージをこうしたコミュニケーション手段を通じて伝えましょう。

そしてそれは既に始まっています。ライオンズクラブ国際協会は現在、Facebook(フェイスブック)、MySpace(マイスペース)、Twitter(ツイッター)、iPhoneアプリケーション、ライオンズ独自のYouTube(ユーチューブ)チャンネル、LinkedIn(リンクトイン)、Flickr(フリッカー)を設けています。そして忘れてならないのが私の新しい国際会長ブログです。これらが何かお分かりにならない方は、調べてください! ポッドキャストをご覧になったことがありますか? ライオンズクラブ国際協会のビデオの多くは、今ではポッドキャストで公開されています。

しかし、若者と交流するということは、コミュニケーション以上のことなのです。若者に通じるプログラムで彼らを引き込み、彼らの意見や参加を促す必要があります。

クラブはさまざまな方法で若者の毎日を輝かせることが出来ます。最良の方法の一つは、地元の学校または青少年団体と協力し合うことです。学校にレオクラブを結成することが出来るでしょうし、あるいは既存のレオクラブと力を合わせ、合同事業を行うのもよいでしょう。その際、学生たちに主導権を握らせるのです。

また、ライオンズ国際ユースキャンプや青少年交換プログラムに参加する青少年のスポンサーとなることも、ライオンズクエスト・プログラムを導入することも可能です。それから、最寄りの学校で平和ポスター・コンテストをスポンサーするというのはどうでしょう? 昨年度は36万人もの11歳から13歳の子どもたちが平和ポスター・コンテストに応募しました。

今年度、私は新たな試みとして、11歳から13歳の失明もしくは視覚障害のある子どもたちを対象とする作文コンテストを導入します。これは平和ポスター・コンテストと同様の方法で行われることになります。「平和が生み出す力」というテーマで500語以内で作文を書く機会が、子どもたちに与えられるわけです。クラブが子どもをスポンサーする方法についての詳細は、www.lionsclubs.orgでご覧ください。

更に私は今年度、ライオンズの「奉仕における若い指導者アワード」を重視していきます。「奉仕における若い指導者アワード」プログラムはライオンズ青少年奉仕の機会における取り組みの一環です。ライオンズ青少年奉仕の機会の使命は下記の通りです。

「個人的にも集団的にも、多くを達成し、学び、寄与し、奉仕する機会を、青少年育成の分野において最善な方法としてみなされる活動を通して世界の青少年に提供する」

これについても、詳細はライオンズクラブ国際協会のウェブサイトをご覧ください。

自己に内在する光を見いだす

「私たちには今のままの状態を続ける猶予はありませんし、現状に甘んじていてはいけないのです。私たちは自らの影響力を行使し、拡大と成長を目指して努力しなければなりません。世界最大の奉仕団体としてのリーダーシップを維持するためではありません。それは、そのこと自体、重要ではないからです。しかし、人類への貢献においてベストであるためには、ライオンであることが、信望を集める、輝かしい栄誉としてみなされるよう、努力しなければならないのです」

ジョン・L・スティックレー元国際会長　1956年就任演説から

灯台は象徴以外の何物でもありません。しかし、一人ひとりのライオンから照らし出される光は、本物なのです。私の家族はもちろんのこと、ライオンであることが私の人生に明るい光をもたらしてくれました。その光のおかげで私は自らの地域社会について理解を深めることが出来ただけでなく、自国や世界に対する視野が広がりました。

私たちの最も大きな課題は、世界で一流の奉仕団体であり続けると共に、次世代の、奉仕に熱心な男女を引きつけることです。その方法はと言いますと、奉仕という私たちの使命を通して行います。奉仕の拡大が、会員の拡大につながるのです。ただそれだけのことなのです。

ライオンズの会員は困っている人々に奉仕をしている時、最も大きな喜びを感じ、最も明るく輝きます。ライオンと話をしてみてください。彼らが必ず話したがるのは、所属クラブが取り組み中の事業についてか、誰かに重要な影響を及ぼした忘れられない瞬間についてです。ライオンズは自分たちが行っていることを誇りにしています。

会員であり続ける理由を与えてください。誰かの人生に役立っているというのがその理由なのです。そうすれば、ライオンズは生涯ライオンズであり続けるはずです。

グローバル会員増強チーム（GMT）が過去2年間にもたらした成果は見ての通りです。有能なGMT、エクステンション・ワークショップ、会員維持は引き続き、近頃実現している会員増強における中核を成していきますが、これに奉仕が加わります。今年度、私は奉仕に力を入れ、クラブが看板奉仕事業に引き込むことでいかに新会員をひきつけ、会員を維持することが出来るかを強調していきます。そのために会員増強に関連して奉仕を推進する特別コーディネーターをGMTに任命する予定です。

奉仕の光は、私たちみんなの中で明るく輝いています。その光をずっと輝かせ続けてください。そして他の人々と分かち合ってください。オリンピックの聖火リレーのように、奉仕の光を次から次へと人々に渡していってください。

輝かしいスタート賞

「自分が既に習得していること以上の物事に挑戦しない限り、成長はない。成功を夢見るだけの人もいれば、その実現に向けて努力する人もいる」
作者不明

「輝かしいスタート賞」は、着任最初の3カ月に会員増強で優れた成績を収めた地区ガバナーに授与されるものです。「輝かしいスタート賞」には二つのレベルがあります。 地区ガバナーはそのいずれか一つのみの受賞対象となります。受賞の資格要件は次の通りです。

ファーストライト賞

二つの新クラブ結成もしくは会員増加が、2010年9月30日の時点で達成されている

ブライトライト賞

五つの新クラブ結成及び会員増加が、2010年9月30日の時点で達成されている

新クラブのチャーター申請書はすべて、必要事項が漏れなく記入された状態で、2010年9月30日（木曜日）の終業時までに必着で、ライオンズクラブ国際本部の会員プログラム及び新クラブ･マーケティング課に届いていなければなりません。

受賞対象のクラブとしてみなされるためには必要事項がすべて記入されたチャーター申請書、書類／書式、納入金がすべてライオンズクラブ国際本部に2010年9月30日の業務終了時までに必着で届いていなければなりません。

希望の光アワード

シアトルでの国際大会で授与される「希望の光アワード」は、奉仕の分野でクラブ及び地区が収めた優れた功績をたたえるものとなります。「グローバル奉仕実施キャンペーン」に参加し、その報告書をライオンズクラブ国際本部PR部に送ったクラブと地区のみが「希望の光アワード」の受賞対象となります。報告書（活動についての説明と、出来れば写真を添える）を提出することで、クラブまたは地区は自動的に審査の対象となります。カテゴリーは以下の通りです。

- ●最優秀環境保全事業（クラブまたは地区によって行われたもの）
- ●最も独創的な青少年プログラム活動（クラブまたは地区によって行われたもの）
- ●盲人または視覚障害者に対する顕著な貢献（クラブまたは地区によって行われたもの）
- ●最優秀飢餓救済プログラムまたは活動（クラブまたは地区によって行われたもの）
- ●奉仕精神を最良の形で体現したライオン

最後のカテゴリーに対する推薦は、2011年4月1日までにライオンズクラブ国際本部PR部に送付しなければなりません。受賞候補者の推薦を行うことが出来るのは、執行役員または国際理事のみです。

天駆けるライオン

ライオンズを新たな高みへ

マレーシア・ボルネオ島の僻村に浄水を供給するライオンズの事業を視察

アメリカ・ノースカロライナ州にあるシド・スクラッグスⅢ世国際会長のクラブでは、いくつかの恵まれない家族を支援することに決めた。彼は仲間の一人と森を抜けて、荒れ果てたトレーラーを訪れた。末期がんのその女性は夫に捨てられ、幼い2人の子どもと寂しく暮らしていた。彼らが食料を入れた大きな箱を下ろすと、母親が「もう少し時間がありますか?」と静かに尋ねた。会長はその時、「ここで1日中、家族の世話をして過ごすことになるだろうな」と考えた。

しかし、母親は話がしたいだけだった。スクラッグス会長は振り返る。

「彼女はこの日とても落ち込んでいて、『小さな子どもが2人いるのに、何もしてあげることが出来ません。この子たちは私のことを覚えていてくれるでしょうか』と言いました。私たちは、彼女がなぜ生まれてきたのだろうと考えている瞬間に居合わせたのです」

スクラッグス会長の職業はパイロットであった。しかし同時に夫、父親、ライオンズの会員でもあったため、彼女の人生を優しく次のように肯定した。

「子どもが母親を忘れるわけがありません。あなたが愛していたこと、気に掛けてくれていたことを必ず覚えているはずですよ」

スクラッグス会長は7月の宣誓就任式を数週間後に控えた今、国際本部のオフィスで過ごしながら、こうした経験がライオンズの指導者としての1年を決定づけると考えている。彼はこれまで夫として、父として、また地域社会のリーダー、ライオンズの会員として社会に報いてきた。そして世界中のライオンズが、自らの恵まれた立場と機会を見つめ直し、実地参加型の奉仕に立ち返ってくれることを願っている。

「皆さんがライオンズの奉仕を義務と考えるなら、全力を尽くそうとはしないでしょう。それを機会と考えれば、必要なことを何でもやろうとするはずです」

と彼は言う。

「この国に生まれた私たちは幸せです。どこで生まれたにせよ、ほとんどのライオンズは立場や機会に恵まれています」

スクラッグス会長が気に入っているライオンズのアクティビティの一つは、ノースカロライナ州で行われる3日間の視覚障害者釣り大会である。大会には500人余りが参加し、オッターバンクスの桟橋から釣りに出掛ける。彼らは2隻の遠洋漁船の上で数年来の仲間と親交を深め、さまざまなワークショップを通して自らの生活をより良く管理する方法を学ぶ。会長は楽しそうに釣り針に餌を付け、なじみの顔を見ながら参加者と語り合う。彼は傍観したり距離を置いたりすることなく、直接彼らの中に飛び込んでいく。

「シドが視覚障害者の釣り大会にこれほど打ち込む理由の一つは、私の知る限り、彼が常に奉仕の相手と共に歩みたいと考えてきたからではないでしょうか」

と、この大会の事務局長を務めるグウェン・ホワイト地区ガバナーは述べている。

成功を目指して

スクラッグス会長には向上心と頂点に立ちたいという情熱がある。それは彼も自覚しているように、スポーツにいそしんだ少年時代と、彼を励ましてくれた父親の影響である。会長はテネシー州のチャタヌーガで育った。地元紙『チャタヌーガ・タイムズ』に勤めていた父親はピアノの演奏や作曲が得意で、常に弱者の味方であった。かつて大学にいた頃、ある教授が反ユダヤ的な発言をした。それに対する抗議の気持ちとユダヤ人のクラスメートや友人への共感から仲間の一人と教室を後にしたが、教授はこの行動に成績を下げることで報復した。父親の優しい一面は仕事にも表れ、聴覚障害を持つ従業員と会話するために手話を学んだ。

母親は日曜学校の教師で、若者と接することが好きだった。

「彼女はとても負けず嫌いで、勝つことに情熱を燃やしていました。ボードゲームであろうと何だろうと、少しも手を緩めようとしないのです」

それは彼のコーチも同じであった。市内の中学生陸上競技会で会長が1回目の幅跳びに失敗した時、コーチのバディ・ゲドランは背を向けて立ち去ろうとした。彼は呆然とする会長に、

「どんな時でも全力を尽くそうとしないなら、君の面倒を見ようとは思わないね」

と浴びせかけた。2回目、シドは本気で助走に入った。

「私は文字通り穴から飛び出し、当時の記録をほとんど2フィート半も上回る結果を出しました」

しかし、そんな輝かしい勝利を手にした彼も、高校時代にはレスリングマットの上でこれまで経験したことのない苦い敗北を味わった。ポイントでリ

ードしていた彼は気を緩め、突然仰向けにされている自分に気付いた。残り1秒のところで相手に押さえ込まれてしまったのである。

「審判も私も驚きました。1秒後、私は勝利を手放していました。この1回の敗北が、その後の人生を突き動かすことになりました」

総合士官学校ベイラー・スクール・フォー・ボーイズではトラックを走り、フットボールでもハーフバックを務めた。教師とコーチは彼の心に消えない感銘を残している。

「多くの人々が私に人生を懸けてくれたため、私は人と分かち合うことに責任を感じています。私の人生を決定づけたいくつかの瞬間には、チームワークがかかわっていました。勝利を逃した時にも、傍らには『気にするな、これも経験だ』と言ってくれるコーチがいたのです」

スクラッグス会長は学業も優秀で、1956年に海軍兵学校への入学を認められた。3年生の時、飛行訓練でステアマン機「Yellow Peril」を飛ばすことになった。その魅力に取りつかれた彼は語る。

「皮のヘルメットをかぶって空に舞い上がること、コックピットでじかに風を感じることはすばらしい体験でした」

卒業するとフロリダ州ペンサコラの海軍航空プログラムに参加し、61年に「金色の翼」章を受けた後、空母の飛行隊に配属されて太平洋を航行した。彼は提督補佐官を務め、ベトナム戦争の初期に飛行している。幼い子どもを抱えて上級ジェット機訓練団の飛行教官をしていた67年には軍歴を捨てることを決意し、アメリカン航空のパイロットの職に就いた。

彼はニューヨーク、ボストン、シカゴ、ローリー・ダラム、マイアミの母港を飛び立ち、さまざまな航空機を操縦した。航空会社では運航管理者を務め、新人機長や副操縦士に同行して監督した。

しかし、スクラッグス会長の技能や配慮は飛行に限らず、神経質になった乗客に寄り添い元気づけることも得意であった。彼はどう言えばいいか心得ていたが、あらゆる人々を安心させられたわけではない。会長はそのことを潔く認め、振り返る。

「飛ぶことを本当に怖がっていたある老婦人のことは一生忘れられないでしょう。私は自分には4人の子どもがいて、孫も何人か出来ていると打ち明けました。すると彼女は、『あんたにもっと白髪があって、そんな遠近眼鏡をかけていなかったら、ずっと安心出来るんだけどね』と答えたものです」

（右ページ）盲目のゴルファーのためにボールを並べる会長
（上）スクラッグス会長（左）はスポーツの才能に恵まれていた
（右）元パイロットの会長はライオンズを次のレベルに引き上げようとしている

家庭人として

スクラッグス会長は初めて車を買った晩に、ジュディ夫人と出会った。海軍兵学校時代のことで、親友の一人が彼のために初対面のデートを企画してくれたのだ。その晩、彼は買ったばかりの車で一方通行の道に迷い込んだ。そのため、目ざとい2人の警官に警察署まで「招待」され、市への「献金」を求められることになる。ジュディ夫人には、自分が警察署にいて少し遅れることを電話で伝えた。夫人の大学に着くと彼女に頼まれたルームメイトから品定めを受けたが、この友人が太鼓判を押したためデートの運びとなった。

彼がこの時支払った献金は、実際には正規の金額に満たなかった。

「割引の日だったというわけね」

と、ジュディ夫人はにっこり笑う。

夫人はデートの間に、この勇敢な海軍将校がカーニバルのある種の乗り物に弱いことに気付いた。

「観覧車から降りると、彼は静まり返っていました。不思議に思って『どうしたの?』と尋ねると、少し気分が悪くなっていたらしいのです」

こうした出来事はいずれも取るに足りないことだった。2人の相性は極めて良かったからである。

「彼はとても思いやりのある人です」

と夫人は語る。

「そのことには結婚する前から気付いていました。兵学校で航海術を教え、士官候補生の新クラスを指導していた時、彼は受け持った人々をとても気に掛けていました」

スクラッグス会長は次のように語る。

「ジュディには静かな自信がありました。彼女は自分のことを分かっていて、肉体を超えた魅力があったのです。私は彼女の内面の美しさを瞬時に見て取りましたが、それはとても興味深いことです。私の母が日頃から、『自分の子どもの母親になってほしくない女性と真面目に付き合う必要はない』と言っていたからです。私はジュディに出会った時、自分の子どもの完璧な母親になるだろうと直感しました」

2人は海軍兵学校のチャペルで結婚した。会長は任務で頻繁に出張し、海軍時代には転勤を8～9回繰り返した（パイロットとしての在職期間を含めれば転勤は18回にも及び、夫人の荷作りの手際は「天下一品」とのことである）。海軍時代にシンディ、デビー、S・リーの3人が生まれ、ケビンは軍隊を去ってから授かった子どもである。

子どもたちは夫妻の家庭生活の中心であった。彼らはスポーツ、学校、教会のさまざまな活動で常に忙しかった。子どもたちの友人やクラスメートを自由に出入りさせていた夫妻は、次のように述べている。

「よくあることですが、『どうぞごゆっくり』というわけです。私たちは、広い空間があるのだから人を楽しませるべきだと考えていました。子どもたちが家にいれば、どこにいるのか心配する必要はありません。このやり方は実にうまくいきました。私たちにはたくさんの『養子』が出来たのですから」

スクラッグス会長は子どもたちの教育に熱心で、学校の設立や経営にもかかわった。コネチカット州では通っていた教会がリッジフィールド・クリスチャン・アカデミーを設立し、彼は資金を調達して学校を軌道に乗せるために手を貸した。ニューハンプシャー州では私立学校の教育委員を務め、ついには校長に就任することになる。夫人

（右ページ）結婚式で正式な見送りを受ける新婚の夫妻
（右）1970年代に2人の男児と2人の女児を育てた
（下）夫妻は子どもたちと16人の孫たちに大きな誇りを感じている

はパイオニア・ガールズのために奉仕し、会長もさまざまな青少年活動に取り組んでいた。

「当時はマリファナが広まり、子どもたちはさまざまな薬物に手を出していました。彼らをスポーツなどに熱中させることが出来れば、仲間からの圧力という落とし穴から救えるはずです。私はいつもそう考えていました」

先駆的なライオン

スクラッグス会長はノースカロライナ州に移った後、92年にヴァス ライオンズクラブに入会した。クラブには18人の会員がいたが、活動していたのは12人に過ぎず、地区の活動にも特に積極的とは言えなかった。スクラッグス会長は会員委員長を志願したが、彼のスポンサー（当時のクラブ会長）は「新しい会員は必要ない」と言っていた。

ともかく、スクラッグス会長は新会員を入会させた。クラブは奉仕を拡大し、地域社会でも積極的に活動し始めた。彼はレオクラブの結成も支援し、クラブと地元の学校のかかわりも深まった。クラブは更に、男女スカウト団のスポンサーや平和ポスター・コンテストにも取り組んだ。

「かつて私たちのクラブでは、実地参加型の奉仕よりも資金調達を重視していました。いくつかの奉仕活動を支援していたけれど、ゾーン会議やキャビネット会議、地区大会にさえ参加しようとはしませんでした」

クラブが子どもたちに利益をもたらしている様子を見て、数人の親が入会した。会員数は65人を超えたが、多くの新会員はスクラッグス会長がスポンサーとなったものだ（その数は合わせ

マレーシアの恵まれない人々に食事を供給するライオンズの事業に手を貸すスクラッグス夫妻

て100人を超えている）。彼はクラブの活性化と変革に貢献した。彼がスポンサーとなったヴァス ライオンズクラブの会員ブラッド・ログスドンは語る。

「私たちは積極的に取り組むようになりました。クラブを地域社会だけでなく、地区にも積極的にかかわらせようとし始めたのです」

スクラッグス会長は別の面でも草分け的な存在であった。このクラブの会員は男性だけで、「女性は入会させるな」と警告する会員もいた。彼は機が熟するのを待ち、首尾よくスーザン・コールの招請に成功した。彼女はレオクラブの学校顧問で、レオの母親であっただけでなく、その年の州の最優秀教師でもあった。彼女は後にクラブ会長となっている。

スクラッグス会長はまた、ローリー・エリート ライオンズクラブなどの特別なクラブの結成にも手を貸した。このクラブは、彼が理事を務めていたローリー失明者診療所の視覚障害者と職員で構成されていた。彼は身体の不自由な人々でも社会に報いることが出来ると信じている。社会の一員であるためには何かを返さなければならない。会長は最近、囚人が眼鏡をリサイクルしている刑務所を訪問した。彼は囚人たちの奉仕に感謝し、彼らの作業は他者の人生に奇跡をもたらし、その努力によって眼鏡を受け取った人のヒーローになれると伝えた。この言葉はある囚人の心を打った。

「彼は誰かに感謝されたことなど一度もなく、出来損ないと言われることはあっても、ヒーローと呼ばれることはなかったそうです。感謝を示したことは正しかったようですね」

希望の光

スクラッグス夫妻は子どもたちに大きな誇りを感じている。末子のケビンは聖職者で、夫妻は任務でメキシコに向かう彼に同行して眼鏡を配布した。上の息子S・リー・スクラッグスⅣ世は理学療法士として、脳損傷その他の外傷に苦しむ患者の治療を専門にしている。かつて妊婦危機管理センターで働いていたシンディは、家で子どもを育てながら有機園芸を教えている。学校教師だったデビーも今は自宅で子どもを育て、地域社会で音楽やスポーツにいそしんでいる。彼らの奉仕の精神は孫たちにも受け継がれた。いちばん上の孫娘は高校で手話を学び、現在は看護師として働いている。

スクラッグス家では、子どもたちに奉仕を要求する代わりにその手本を示してきた。

「そのことを考えると、本当に幸せな気持ちで満たされます。価値あることに取り組んでいる私たちの姿を見て、彼らは同じようにしたいと願うようになってくれました」

そう語る会長に、夫人が次のように付け加えた。

「家族は私たちの宝物です。どの子も特別で唯一の存在です。私たちは一人ひとりに大きな誇りを感じています」

夫妻は人生のすべてを分かち合い、その多くの部分をライオンズ活動が占めている。彼らが出会い、手を貸した

人々の思い出は心に深く刻まれている。

「私にとってライオンズが特別である理由は、会員が自分の手で奉仕することです。私たちが人々の生活をどのように変えてきたか、私は一つひとつ物語ることが出来ます。『Liberty, Intelligence, Our Nations' Safety（自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる）』というスローガンが、私にとってほとんど意味を持たないのはそのためです。私はこのスローガンを『Loving Individuals Offering Needed Service（必要な奉仕を提供する愛ある個人）』に変えたいと考えています」

と彼は言う。

スクラッグス会長によれば、ライオンズは希望の光に他ならない。

彼は世界中の会員に希望のメッセージを届けようとしている。

「人は物事をそのままの姿で見るものですが、ライオンズは違います。私たちは、物事をその到達し得る最高の姿で見ています」

●スクラッグス会長ファイル

盲導犬育成のリーダー

「犬とレシピエントの結びつきを目にした時、初めて私たちが人々の生活にもたらした変化を知りました。『白い杖で歩くことが出来るようになったけれど、犬は社会とのつながりを与えてくれました。人々がそばに寄ってきて、とても奇麗な犬だね、と声を掛けてくれるからです』と語ったバージニア州のビル・ハッデンの言葉を、私は忘れることが出来ないでしょう」（シド・L・スクラッグスⅢ世）

盲人の騎士

「私は全米盲人ゴルフ協会に携わり、ムーアヘッド盲学校の理事長も務めています。皆さんはまた、糖尿病や糖尿病性網膜症がもたらす問題にもお気付きでしょう。検査を受ける人々は障害の存在にすら気付いていません。こうした奉仕は皆さんにやりがいを与えてくれるはずです」（シド・L・スクラッグスⅢ世）

ライオンズの指導者

「人生と国際協会に対するシドの熱意が、彼の触れるあらゆるものに伝わるのだと思います。それは人々を引き込み、より良い会員になって力を尽くそうとする意欲をかき立ててくれます」（エド・マコーミック元国際理事／カンザス州バリーセンター）

会員増強の推進者

「皆さんも私も、永久にクラブに留まるわけではありません。あらゆる会員は2人の新会員に責任を持つべきです。一人は皆さんの代わりとして、もう一人は国際協会を拡大させる存在として」（シド・L・スクラッグスⅢ世）

実地参加型奉仕の提唱者

「誰かの生活を変えられた時のあの個人的な充実感がなければ、皆さんはダンスや旅行のグループなど、普通の社会団体に参加していたかもしれません。私にとってライオンズが特別である理由は、会員が自分の手で奉仕することです。私たちが人々の生活をどのように変えてきたか、私は一つひとつ物語ることが出来ます」（シド・L・スクラッグスⅢ世）

クリベッジの勝負

新婚時代、会長と夫人はクリベッジで競い合い、負けた方が食器を洗うことにしていた。夫人は祖父との長年の対戦で鍛えられた達人であり、夫妻は負けてばかりの会長の救済策として食器洗い機を購入した。

今こそ思い切って、ライオンズを変える気構えが求められている

■山浦晟暉
1935（昭和10）年山梨県生まれ。㈱東京富士カラー代表取締役会長。73年東京新宿ライオンズクラブ入会、91・92年度クラブ会長、2004・05年度330・A地区ガバナー、330複合地区ガバナー協議会議長。05～08年CSFⅡナショナル・コーディネーター。10年7月2日、シドニー国際大会で10～12年の国際理事に就任。

7月2日、シドニー国際大会閉会式で、330複合地区、東京新宿ライオンズクラブのライオン山浦晟暉が、東洋・東南アジア地域選出の国際理事に就任した。「額に汗することが自分の基本」と語るライオン山浦は、国際舞台でも変わることなく務めることを誓った。

（東京富士カラー本社にて）

構成／鈴木秀晃　写真／田中勝明

若い頃に遮二無二働く中で培われた人生訓――「額に汗することが、すべての基本」

――窓際のケースに年代物の機種を含めたくさんのカメラが並んでいますが、すべて山浦さんが使われたものですか。

今も写真関係の仕事をしていますが、社会人としてのスタートは報道カメラマンでした。その時に使っていたものも入っています。学生時代は写真部に所属して、カメラマンになるのが夢だったんです。それが実現したわけですが、早く両親に楽をさせてあげたいという気持ちが強かったものですから、25歳で独立して写真の現像や撮影をする商店を始めたんです。

――ご自分の夢よりもご両親を優先されたわけですね。

私、一人っ子だったということもあるんですが、終戦後は両親とも、かなり苦労したものですからね。

父は近衛兵だったため、戦後しばらくは極東国際軍事裁判のため巣鴨プリズンに収容されていました。最終的には戦犯は免れたのですが、パージ（公職追放）にあい、職に就くのも難しい状況でした。その上、母の体調も良くなかったので、高校、大学はアルバイトで学費を稼いでいました。戦後は、どこの家庭も大変だったと思いますが、そんな事情で独立を早める決心をしました。

「変革への挑戦」こそが、ライオンズの明るい未来につながる
「国際協会とクラブ・メンバーとの距離の短縮化、
参加意識の高揚」のためIT活用を

商店を始めてからは、遮二無二働きました。日中、観光地で撮影したものを夜に現像して、寝床の上に吊して乾燥させ、朝5時ぐらいに起きて紙焼きする。それを旅館に持って行って、出発前のお客さんに渡すんです。

そんな生活が10年ぐらい続きましたかね。努力であるとか、情熱。そういったものが、生活の中で自然と培われた気がします。ですから、仕事にしても、ライオンズにしても、額に汗することが私の基本になっています。

全国の駅に設置されている階段手すりの点字プレートは山浦会長時代の東京新宿ライオンズクラブが発端

――ライオンズクラブへの入会は1973年ですね。

その頃には、会社も軌道に乗っていたんですが、まだ30代で仕事が忙しく、正直あまり積極的ではありませんでした。転機になったのは、クラブ幹事をお引き受けしてからです。幹事を務める中で、ライオンズのことがよく分かりました。分かってくると、今度は面白くなって、積極的に活動にかかわるようになりました。

――クラブの活動で印象に残っていることはありますか。

最も思い出に残っているのは、会長の時に実施したアクティビティです。この年は毎月違う事業を企画していました。その一つに、視覚障害者への支援がありました。まず、事業資金を獲得するために、自らも視覚障害を持つギタリスト・アーサー大野氏のコンサートを行いました。そして、その収益でJR新宿駅の階段手すりに点字のホーム案内を設置しました。

日本で初めてのことだったそうで、マスコミにも取り上げられ、これがきっかけとなり、全国の駅に点字表示が設置されるようになりました。会長として誇れる仕事だったと思っています。

会社の役員室には天台宗の開祖・最澄の言葉「一灯照隅 万灯照国」が掲げられている。これは「一人では出来ないこと、一つのクラブやゾーンでも出来ないことを、私たちライオンズクラブはLCIFを通して、例え地球の裏側であろうと世界の隅々まで、愛と喜びと感動ある奉仕を届けることが出来る。この組織の一員であることに誇りを持とう」との思いから、地区ガバナー・スローガンとしていたもの

――ガバナーとしてはいかがですか。

私、中途半端が嫌いなものですから、やるからには1年間、一生懸命やろうと決意しました。その成果として、11クラブのエクステンションや、地区を支援する法人を結成した上でキャビネット事務局を購入し経費節減を実現したことなどがあります。また、車いすの方500人とご家族500人をディズニーランドに招待し、メンバー千人で介助に当たったアクティビティでは、若い会員が感動し、その後友人をクラブに誘って、若い方が大勢入会してくださるという副次的効果もありました。こうしたことを認めて頂き、この年の国際大会で国際アカデミー賞の最優秀地区に選ばれる栄誉に浴しました。

――地区ガバナーを終えられた後も、CSFⅡや20Kのコーディネーター、地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーなどを務められ、いよいよ国際理事として更なる国際舞台へとなるわけですが。

今、紹介して頂いたようなことが評価され、私を国際理事にというお話を頂いたと思うのですが、私自身の奉仕への情熱は全く変わっていませんので、相変わらず汗をかきながら、一生懸命務めさせて頂こうと思っています。

「若い人が夢と希望と感動を持って活動出来るよう、ライオンズを思い切って変える気構えが必要」

——最後に、国際理事としての抱負をお聞かせください。

国際理事というのは会則地域ごとに選出されるわけですから、日本だけではなく、東洋・東南アジア全体のお役に立ちたいとの思いを持っています。そのため、担当地域内の国々を出来るだけ回って、それぞれのご意見をお聞きして、国際協会に反映させられればと考えています。また逆に、成功している国や地域の活動を聞き、日本に還元したいですね。

もう一つ私は、国際協会と会員の距離を縮めることを考えています。そのために協会の動きをスピーディーにメンバーに伝達し、一人ひとりがグローバルな組織の一員として参加意識を持ってもらえるようにしたいと考えています。

そして出来るだけ多くの方たちが国際大会に参加され、同じ奉仕の志で結ばれた仲間が世界中にいることを実感してほしいですね。ライオンズクラブは地域貢献だけではなく、世界中の人々に平和と喜びをもたらす組織だと考えています。ですから人類愛に燃え、国境を越えた活動を実践して、胸にLのバッジを着けていることに誇りを感じてもらいたいのです。

間もなく、私たちライオンズクラブは創立100年を迎えようとしています。我々は先輩たちが情熱と英知を集結して構築された崇高なライオニズムの精神を次世代に引き継ぎ、未来永劫発展するよう、その礎を築く責任と義務があると思います。

JR新宿駅東口の「ライオンひろば」は東京新宿ライオンズクラブ結成40周年記念で建立され、ライオン像は募金箱になっている。1日77万人が利用する乗降客数日本一の新宿駅前だけに、毎年100万円を超える募金が寄せられる

21世紀という新しい時代、世界はグローバル化、情報化の時代であり、人々の奉仕に対する考え方や価値観も大きく変化すると共に、メンバーの高齢化や長引く経済の低迷により、会員が減少する傾向にあり、ライオンズを取り巻く環境は大変厳しいものがあります。この危機を脱するにはクラブの事業や運営の変革、そして若者や女性が入りやすい魅力ある奉仕団体となるためのメンバーの意識改革が求められています。

——時代の流れに合わせ、思い切って変えることも必要だと。

はい。私は国際理事として「変化への挑戦」をキーワードとし、「新しい時代にふさわしいライオンズクラブの変革はどうあるべきか」を国際理事会の場で大いに議論していきたいと思っています。また、先程申し上げたように、その情報を会員の皆様にスピーディーに伝達すると共に、皆様のご意見や主張をインターネットを通じて収集し、出来る限り国際理事会の場で強く訴えていきたいと考えています。

特に日本は今、世界のリーダーになれる人材の育成が必要だと言われています。そのためにも、若い人が夢と希望と感動を持って活動出来るよう、ライオンズを思い切って変える気構えが必要です。それを一つのコンセプトとして、この2年間、取り組ませて頂くつもりです。

最後に、繰り返しになってしまいますが、私はメンバーの皆様の国際協会への参加意識の高揚を図ると共に、国際協会と日本、更にはアジア各国のライオンズクラブの皆様との距離の短縮化を図る「架け橋」となり、イエスマンではなく、主張すべきは主張し、時には「ノー」と言える理事を目指し、日本及びアジア、そして世界に輝くライオンズクラブの発展に貢献出来ればと願っております。その実現のため、微力ではございますが、全身全霊を持って努力を惜しまぬ決意です。

ガバナー協議会議長紹介

抱負、方針、重点課題などを伺った。

略歴は所属クラブ、ライオンズ入会年、主なライオン歴、職業、年齢の順。
経歴及び本文中で使用している略語：CM＝チャーター･メンバー

330複合地区議長　桜井　孝一

さくらい　こういち：神奈川県・南足柄ライオンズクラブ。80年入会。97年度クラブ会長。08年度330・B地区ガバナー。㈱足柄グリーンサービス代表取締役会長。63歳。

シドニーで開催された第93回国際大会において、全日本の皆様のご支援により山浦晟暉国際理事（2010～12年）を誕生させることが出来ました。ホスト複合地区として感謝申し上げます。

国際協会にとっても、日本のライオンズにとっても、明るい未来の扉が開くような活躍をして頂くために、ホスト複合地区は惜しみないサポートをさせて頂く決意をしております。

複合地区ガバナー協議会としては、ご苦労されるであろう330・A、B、C各地区のガバナーの力になれるような運営に全力を傾注致します。

332複合地区議長　其田　桂

そのだ　かつら：青森県・むつライオンズクラブ。83年入会。93年度クラブ会長。00年度332・A地区ガバナー。㈲ソノダビューティスタジオ代表取締役。71歳。

地区ガバナーから10年を経て、今年度332複合地区の議長に就任することになり、責任の重大さを痛感しております。

議長の職責は準地区間の調和と団結を育み、地区ガバナーに助力するとあります。6人の地区ガバナーと協力して明るく楽しくをモットーに、ガバナー時の経験を生かして参ります。お互いの立場を尊重し融和を図りながら、国際会長テーマ「希望の光」と議長アクティビティ・スローガン「築こう世界の平和・つなごう奉仕の絆」を念頭にライオンズクラブの発展に尽くす所存です。多忙な1年になりますが全身全霊を傾け職責を全うする覚悟です。メンバー皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

331複合地区議長　古谷野　環

こやの　たまき：北海道・美唄ライオンズクラブ。81年入会。95年度クラブ会長。04年度331・A地区ガバナー。㈱環商事代表取締役。58歳。

この度、協議会議長にご推薦を賜り、感謝申し上げますと共にその重責を感じております。

地区ガバナーを務めた翌年から、国際理事候補者選挙管理委員会委員、ライオン誌日本語版委員会委員、編集長、08年度からは国際大会委員を2年間務めて、貴重な経験をさせて頂きました。

この間には、八複合地区の多くのライオン仲間と知り合うことが出来ましたし、各準地区及び複合地区それぞれの様子などを伺うことも出来ました。

私は奉仕するライオンズ精神が大好きであり、一日も早く「彼こそライオンと呼ばるる人」になりたいと思います。

333複合地区議長　小野　忠博

おの　ただひろ：栃木県・宇都宮東ライオンズクラブ。88年入会。96年度クラブ会長。10年度333・B地区ガバナー。㈲芳賀交通代表取締役会長。68歳。

複合地区議長に推挙頂き感謝申し上げますと共に、その重責にふさわしい仕事をしたいと意を強くしているところでございます。

名誉顧問を始め諸先輩のご支援、ご指導を得ながら、5人の地区ガバナーと共に「協調・団結」を旨とし、333複合地区の更なる発展を目指します。

議長テーマを「TRANSFORMER 変身　進化」とし、大会テーマを「連帯」と致しました。協調・団結を「連帯」と読み換えて、複合地区の全メンバーが「連帯感」を共有することによって、国際協会の発展に貢献出来ると確信しております。

2010-11年度 330～337複合地区

330～337複合地区ガバナー協議会議長に

334複合地区議長　堀田　和之

ほった　かずゆき：三重県・員弁ライオンズクラブ。78年ＣＭ。99年度クラブ会長。03年度334・B地区ガバナー。SallaAgent Japan相談役。70歳。

日本の複合地区は、質量共に世界に冠たるものと確信しています。そんな中、当複合地区では待望久しい国際会長擁立を目指し、各地区年次大会で投票を済ませ一歩を踏み出しました。強力なリーダーシップの必要性が叫ばれる今、「日本から国際会長を！」という大義に向けサイは投げられたのです。その記念すべき年に議長に推挙され、汗と努力の責任を痛感しています。5人のガバナーの協力を仰ぎ「ライオンズの心はひとつ」として、世界に「ニッポンライオンズ」を発信したいと思っています。何よりも、協議会構成員の皆様のご協力を頼みとし、ご指導、ご鞭撻を伏してお願い申し上げます。

336複合地区議長　武久　一郎

たけひさ　いちろう：徳島城山ライオンズクラブ。77年ＣＭ。80年度クラブ会長。09年度336・A地区ガバナー。医療法人一洋会たけひさ医院院長。75歳。

図らずも今年度336複合地区ガバナー協議会議長を仰せつかり、感激と責任を痛切に感じています。

ライオンズクラブ国際協会の方針並びにさまざまな情報を得る立場にあり、複合地区内の4人のガバナーとの十分な情報共有の下に、より良い政策を立案、協議し、地区内各クラブの融和協調を図り、協議会の運営に鋭意当たっていきたいと考えております。更に、日本の八複合地区の議長の方々と共に、日本の立場をＯＳＥＡＬはもとより世界に向けて発信していくことも必要ではないかと考えております。各位の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

335複合地区議長　辻　吉治

つじ　よしはる：大阪淡路ライオンズクラブ。78年入会。94年度クラブ会長。07年度335・B地区ガバナー。ミスタースマイル㈱代表取締役。66歳。

過去をたたえ、未来に発信する。335複合地区は、歴代ガバナーの下、よくまとまっており、今期4人のガバナー各位と協議を重ねながら合理化を図っていきたく存じます。また、八複合地区の議長各位とも議論を重ね、英知を出し、相互理解の精神の下、全日本ライオンズの発展のため行動して参ります。

世界ナンバー1の奉仕団体「ライオンズクラブ」のメンバー各位が誇りと自信を持ち、ライオンズを愛し続けることにより、必ずや未来の扉は開かれます。お一人おひとりの自覚が大切です。メンバー各位が主役なのです。私共はもちろん、責任あるリーダーとして全力で取り組みます。

337複合地区議長　増田　十郎

ますだ　じゅうろう：宮崎オーシャンライオンズクラブ。90年ＣＭ。90年度クラブ会長。07年度337・B地区ガバナー。㈱マスジュウ代表取締役。72歳。

ライオンズクラブの発展を願う一人として、激しい時代の流れに対応すべく、今何が大切か考えたい。

全国の複合地区の主体性を尊重しながら、国際協会への日本ライオンズの確たる位置づけを明確にしたい。国際協会から日本ライオンズへの組織運用、将来を見据えた日本からの国際会長擁立の実現において、日本ライオンズの実績がなぜ国際協会に今一歩評価されない部分があるのか、新たな課題として究明し、全国の良識あるライオン一人ひとりに透明性を与えられたらと思う。

■国際理事
不老安正
（福岡県・太宰府）

シドニー国際理事会報告

シドニー国際大会の開幕を前に、6月23日から27日まで国際理事会が開催されました。21日の午前中から東京で開かれた八複合地区議長連絡会議に出席し、その夜に成田空港を出発。翌朝到着したシドニーは肌寒く、季節は晩秋から初冬に向かっていました。シドニー国際大会の主会場となるダーリング・ハーバーではワールドカップ南アフリカ大会のオフィシャル・イベントが行われており、街はワールドカップ一色に染まっていました。

理事会の会場となったのは、ロックス地区にあるフォー・シーズンズ・ホテルです。ロックスはヨーロッパからの入植者が最初に上陸した地で、歴史的な建造物を修復、復元して当時の面影を感じさせます。公式プログラムは22日夜から始まり、翌23日に開会式が行われました。エバハルト・ヴィルフス国際会長は現時点で2万9290人の純増、1612の新クラブ結成という成果を報告し、今後、女性と若い会員を増やしていく必要性を改めて強調されました。

24日から始まった委員会審議で、私の所属する国際大会委員会はシドニー国際大会の会場視察を行いました。大会で使用する施設はいずれも設備がよく整っており、また地元201複合地区の大会ホスト委員会が万全の態勢を整えていました。国際本部とのコミュニケーションも非常によく取れているという印象を受け、大会の成功を確信しました。シドニー国際大会の登録者は、事前登録までの段階で1万8800人で、最も多いアメリカが1863人、日本は2番目に多い1707人であることが報告されました。現地登録が始まると更に増えますが、日本の参加者数がアメリカに次ぐ第2位となるのは間違いありません。

LCIFについては、日本から提出された8件の交付金申請はすべて承認されました。ライオンズの人道主義奉仕を支えるLCIFが、NGOの格付けを行う「チャリティー・ナビゲーター」によって最高の4ツ星評価を受けたとの報告もありました。アル・ブランデル理事長からは、バンク・オブ・アメリカやクリントン財団、ゲイツ財団といった企業、団体からの多額の献金も報告され、これもLCIFへの評価と信頼を示すものと思います。

前回のハンブルク国際理事会から協議してきたMERLの再構築に関しては、今理事会で結論が出ました。MERLのうち、会員増強、エクステンション、リテンションを担うMERを一つのチームとし、これをグローバル会員増強チーム（GMT）と統合します。残るLのリーダーシップは新たに独立したグローバル・リーダーシップ・チーム（GLT）を構築します。GMTとGLTの二重戦略で、協会の組織強化に取り組む態勢です。ただし2010‐11年度は移行期間として、従来のMERLチームがそのまま活動を続けつつ、新たな組織が本格始動する2011‐12年度に向けて準備を進めることになります。

今回の理事会で新たにブータンがライオンズ国として承認されました。これにより第93回国際大会は206の国と地域で迎えることになりました。世界各国から大勢の仲間が集い、大会期間中はシドニーの街がライオンズ一色に染まることでしょう。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

ライオンズクエストの更なる普及促進を目指して

5月29日、東京・中央区の日本印刷会館で、ライオンズクエスト・プログラム説明員の研修会が開催された。LCIFから日本でのプログラム管理を委託されている青少年育成支援フォーラム（JIYD）が、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の後援を得て、説明員のスキルアップと説明員同士の情報交換を図るために企画した。説明員とはライオンズクエスト・プログラムの体験会やセミナーを実施する講師のことで、5月末現在、JIYDによって認定された18人（9地区）が、ライオンズクエストの更なる普及促進のため、熱意と使命感を持って活動している。今回の研修会は初めての試みで、認定講師主導によるクラスタリングのデモや、各地域の現状報告とディスカッション、模擬授業などが行われ、主催したJIYDは次のように総括している。

「成果としては、説明員が一同に会することで、他の説明員がどのような活動をしているのか、どんな苦労をしているのかを知ることが出来、自分のセミナーの運び方を振り返り、疑問点を解消する機会となったようです。また参加された方は、説明員の枠を超えて、他地区の状況を知ることが出来たことが良かった、こうした研修会が定期的に開催されることが望まれる、と話されていました。今後の課題としては、JIYDと説明員同士、認定講師が、日常的に情報交換出来る場の提供、具体的なセミナー進行方法や細かい手法の、より一層のスキルアップを図る場の提供が出来るよう、JIYDが環境を整備していくことが必要だと感じています」

日本の国際理事の所属委員会

7月2日、ミネアポリス国際大会終了直後に2010・11年度最初の国際理事会が開催され、各委員会の構成が発表された。日本選出の2年目理事、不老安正国際理事はLCIF執行委員会の副理事長と大会委員会の副委員長を務め、1年目理事の山浦晟暉国際理事は奉仕事業委員会に所属、LCIF執行委員会では幹事を務めることが決まった。

シドニー国際大会における2010〜12年国際理事の選挙では、OSEAL地域の定員3人に対し、日本のライオン山浦と台湾のライオンタールン・チャンの2人が立候補、当選し、残る1人は空席となった。この空席を埋めるため、国際理事会は韓国のライオンサンド・リーを2010〜12年国際理事に指名した。

国際理事会で承認された日本へのLCIF交付金

シドニー国際大会直前の国際理事会で承認されたLCIF交付金32件115万5201ドルのうち、日本に交付されたのは8件14万6325ドル。申請地区と事業内容は以下の通り。

▼333・B地区＝栃木県アイバンクの備品1万994ドル▼334・A地区＝HIV／AIDS移動検査車両1万3617ドル▼334・A地区＝献血輸送車両の購入2万1505ドル▼334・C地区＝フィリピンに小学校建設1万6129ドル▼334・E地区＝HIV／AIDS治療プログラム用車両9902ドル▼335・B地区＝ケニヤに女性・小児クリニックを建設1万5261ドル▼335・D地区＝フィリピンの小学校改修2万7957ドル▼337・D地区＝ラオスに学校建設2万2008ドル

これらを含む全交付金リストは国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のLCIFページに掲載されている。

複合地区ガバナー協議会議長連絡会議の新旧引き継ぎ

6月21日、東京・東銀座の日本ライオンズ連絡事務所において、現・次期協議会議長引き継ぎ会議が開催された。会議では現議長連絡会議から、第49回OSEALフォーラム（台湾・高雄）への参加協力など11項目の引き継ぎ事項が伝達された。引き続き開催された次期議長会議では、次年度世話人に増田十郎337複合地区次期議長を、副世話人に其田桂332複合地区次期議長を、副世話人（迎接担当）に桜井孝一330複合地区次期議長を互選した。

2010・11年度の第1回ガバナー協議会議長連絡会議は7月28日、日本ライオンズ連絡事務所で開催される。

複合地区改正案4項目を八複合地区で可決承認

330〜337複合地区の第56回複合地区年次大会に共通提案された4項の複合地区会則改正案が、八複合地区すべてで提案通り可決承認された。改正された条項は以下の通り。

第7条複合地区年次大会（複合地区会則及び付則標準版の新しい規定を追加挿入する案）、第9条ライオン誌日本語版（国際理事会方針に抵触しない内容に改める案）、第17条地区キャビネット構成員・第19条キャビネット構成員の任務（地区委員会の名称変更、差し替え案）、第20条地区年次大会（地区会則及び付則標準版の新しい規定を追加挿入する案）。

宮崎県の口蹄疫被害に対する支援広がる

宮崎県で発生した口蹄疫被害は、畜産業だけでなく地域経済に甚大な影響を与えている。県は非常事態宣言を発して、不要・不急の外出を控えるよう呼び掛けており、337・B地区（大分・宮崎）によると、被災地域では行事やイベントは中止が相次ぎ、被災地のクラブは例会を開催出来ない状況にあるという。6月20日に予定されていた高鍋舞鶴ライオンズクラブのチャーター・ナイト式典は延期を余儀なくされた。

地域の深刻な被害状況を受け、337・B地区は災害援助金資金100万円を拠出、337複合地区も同じく100万円を拠出した。337・B地区には他地区や地区内外のクラブからも義援金が寄せられており、6月15日現在で340万3千円に上っている。

口蹄疫被害への義援金送付に関する問い合わせは、337・B地区キャビネット事務局（TEL：0985・28・7211　FAX：0985・61・2717　Eメール：lions337b@vivid.ocn.ne.jp）へ。

ミレニアム開発目標（MDGs）の年次報告書発表

2015年までの貧困人口の半減など8項目の目標達成を目指して定められた「国連ミレニアム開発

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン』誌本部版より）

ニュージーランド

苦しみを忘れたがんの子どもたち

ニュージーランドでは、がん患者の子どもを抱える家族が「患者の寿命を延ばすことは出来ないが、その生活を改善することは出来る」と自らを励ましている。そのために、全国5カ所で毎年行われるキャンプは「キャンプ・クオリティー」と呼ばれている。

ライオンズが支援するこのキャンプには、5歳から16歳までの子どもたちが参加。彼らは痛みや孤独と戦いながら、さまざまな遊びや交流を楽しんでいる。ウォーターパークや動物園の訪問、ゴーカート、ジェットスキーなどのアクティビティが行われ、ヘリコプターや戦車に乗せてもらえることもある。

キャンプ・クオリティーの特色は、必要に応じて参加者の日常生活を支援し、あるいは単に友達として付き添う健康なコンパニオンの存在である。23歳のレイチェル・ホアリーは、「私たちの基本的な役割は、絶えず彼らを見守り、気を配ることです」と語る。彼女がこのキャンプのことを知ったのは、勤め先の印刷所で参加者記念冊子の製作に携わったためである。21歳の同僚ハンナ・ジョージもコンパニオンとして登録している。

兄と従兄妹をがんで亡くしたジョージによれば、キャンプ・クオリティーの参加者たちは、通院生活やがんを抱えて生きる現実を忘れて1週間を過ごすことが出来る。

韓国

参加型の奉仕に取り組む

韓国のライオンズは作業用の長靴と手袋を身に着けることをいとわない。Sae Suncheonライオンズｸﾗﾌﾞは、順天市の貧しい家庭を対象に住宅改善事業を実施。彼らは屋根の修理や家の掃除、更に洗濯や食料品の配達も行った。Daegu Young Wonライオンズｸﾗﾌﾞもこれに負けじと、知的障害者・独居高齢者用の施設の修繕に取り組んだ。

インドネシア

命を守るために

インドネシアのユドヨノ大統領夫人は、ジャカルタにあるフサダ

総合病院で3回にわたり悪性腫瘍摘出の手術を受けたマイケル・タン（13歳）の病室を訪問して、励ましの言葉を掛けた。

無料でこの手術を行ったのはジャカルタ・マンガ・ベサール ライオンズｸﾗﾌﾞ会員のリー・ダルマワン医師。病院の費用はジャカルタ・ジャヤ・サンター・アグンライオンズｸﾗﾌﾞが商店に募金箱を置くなどして集めた。

目標（MDGs）」の進捗状況を評価する10年版年次報告書が、6月23日に発表された。これによると、1日1・25ドル未満で暮らす貧困人口は90年の46％から05年には27％まで減少し、15年には推定15％となって、90年から半減という目標を達成出来る見込み。一方、幼児死亡率を3分の2引き下げる目標では、改善は見られるものの依然として年間数百万人の子どもたちが悲劇的な若さで命を失い、達成のめどは立っていない。このままでは多くの項目で達成が厳しい状況にある。00年9月の国連ミレニアム・サミットで合意されたMDGsは、極度の貧困と飢餓を減らし、健康状態と教育を改善し、女性の地位を向上させ、環境の持続可能性を確保するための世界共通の目標として定めている。

会議録

第10回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（5月31日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：石井征二、後藤忍、三浦利治、加藤弘明、太田道信、大村哲郎、山地章靖、北島建則各議長、杉本忠夫、不老安正両国際理事）

①春季国際理事会（ドイツ・ハンブルク）決議要約②次年度への引継ぎ事項の検討（案）③各委員会報告と確認事項④その他報告事項

第10回ライオン誌日本語版委員会（6月9日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：杉本忠夫、不老安正両国際理事、瀧澤嘉門、佐々木公穂、林静誠、砂田繁雄、大島康男、小田邦雄、塩倉安伸各委員、荘英隆ITアドバイザー）

①6月号（10万8500部発行）出来②7月号記事内容の確認③8月号以降台割（案）④ライオン誌日本語版事務所運営⑤オンライン報告システム⑥その他

第1回複合地区YE委員長連絡会議（6月11日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：今井三和、深川明俊、坂井源一、切中厚美、松田毅、松本正福、志岐好春各委員長、清野一彦委員長代理）

①夏期交換A派遣生 B来日生②YE全体の申し送りについて

第5回複合地区国際大会委員長連絡会議（6月15日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：桜井孝一、古谷野環、佐々木貞夫、眞尾博、滝澤巌、岡田宏、三谷智省、榎本巳之助各委員長、不老安正国際理事、後藤忍議長、山浦晟暉2010～12年国際理事候補者）

①第93回シドニー国際大会 A.全般 B.インターナショナルパレード関連 C.日本ライオンズ代議員会・ジャパンレセプション D.地区ガバナー・エレクト・セミナー参加ツアー ②第49回東洋・東南フォーラム（台湾・高雄／2010年11月18日～21日）

第4回複合地区会則委員長連絡会議（6月16日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：宇田川雄弘、山

国際本部・太平洋アジア課発――
オークブルック通信⑥

太平洋アジア課発の情報サイト

以前この欄で、リニューアルされた国際協会公式ウェブサイトの翻訳が完了したとお伝えしましたが、その時にも触れた通り、4万ページもの協会サイトを随時翻訳するには莫大な費用が掛かるため、各国語版の翻訳は6カ月ごとのペースで行われます。ニュース記事や、特に即時性が必要な情報は随時更新されますし、URLバーの言語を表わす文字（日本語の場合はJA、英語はEN）を入れ替えて英語版をご覧頂くことで最新情報を得ることは出来ますが、日本語での情報発信の遅れにより何かとご不便を感じられることもあるかと思います。

そこで当課では、日本の各地区、クラブ向けに情報サイトを立ち上げました。

これも以前当欄でご紹介した「Eクラブハウス」のテンプレートを使って作成したもので、重要なお知らせや、各種書式のダウンロード・ページなどに簡単にアクセスして頂くことが出来ます。協会サイトと併せて、ぜひご活用ください。

田稔、米谷春夫、松尾精介、濱田富雄、福島武各委員長、白土照男委員長代理）

①第3回会議要録の確認②ハンブルク国際理事会決議要約の確認③シドニー国際大会上程の国際会則改正案の確認④第56回各複合地区大会報告⑤ライオンズ必携第50版の検討⑥ライオンズ必携注文取りまとめ依頼文書の検討⑦その他

国際大会開催予定

11年：アメリカ・ワシントン州シアトル／7月4日～8日
12年：韓国・釜山／6月22日～26日
13年：ドイツ・ハンブルク／7月5日～9日
14年：カナダ・オンタリオ州トロント／7月4日～8日
15年：アメリカ・ハワイ州ホノルル／6月26日～30日
17年：アメリカ・イリノイ州シカゴ／6月30日～7月4日

新結成／解散クラブ

■新結成クラブ

鹿児島維新（吉村優紀会長）▼6月1日結成▼スポンサー／鹿児島さつま

千葉県・白井あすなろ（深澤泉会長）▼6月11日結成▼スポンサー／白井

千葉県・柏創生（助川忠弘会長）▼6月13日結成▼スポンサー／柏中央

■解散クラブ（6月）

東京人形町／東京町田グリーン／神奈川県・横須賀西／埼玉県・上福岡／埼玉県・北本／北海道・札幌ユニティ（合併）／北海道・厚沢部／北海道・古平／北海道・函館コスモス／青森県・平内／青森県・今別／茨城県・下妻／茨城県・結城きぬ／愛知県・豊明／岐阜県・可児東（合併）／福井県・南条今庄／兵庫県・東浦／兵庫県・猪名川／兵庫県・川西能勢（合併）／兵庫県・神戸新世紀（合併）／大阪真田山／徳島県・阿南リバティ／徳島県・半田／愛媛県・津島／岡山県・勝央／大分県・国見／大分東／宮崎県・新富／長崎県・佐世保北／鹿児島県・垂水／沖縄東

■合併クラブ（合併前のクラブ）

北海道・札幌しらかば（札幌しらかば／札幌ユニティ）
岐阜県・可児（可児／可児東）
兵庫県・川西（川西／川西能勢）
兵庫県・宝塚ニューセンチュリー（宝塚ニューセンチュリー／神戸新世紀）

訃報

■元国際役員

千葉俊一（宮城県・涌谷）6月25日死去、85歳。04年度332-C地区ガバナー。

法亘筆夫（兵庫県・姫路大手前）6月29日死去、84歳。86年度335-D地区ガバナー。

■献眼

5月＝重末廣宣（東広島ウエスト）

読者プレゼント

■シドニー国際大会土産を7人に

国際大会の取材担当スタッフが、大会会場で集めた品々をセットにしたお土産を、7人の読者にプレゼントします。

お土産は6点セット。シドニー国際大会の記念ピンとゴム製リストバンド、LCIFのキーホルダー、今大会で発表されたボシュロムとLCIFのパートナーシップ・ピン、そして国際平和ポスター・コンテストのカードを、大会登録キットとして配られたバッグに入れてプレゼント。

応募要領：はがきに「シドニー」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0）からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は8月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

築地通信

●国際大会の主会場ダーリング・ハーバーはFIFAファンフェスタの会場にもなっており、W杯ムード満点。パレードが行われた6月29日は日本対パラグアイ戦があり、ライオン誌の若手会員フォーラムに参加された小野木さん、辻村さんとパブリック・ビューイングで応援した。冬の夜中だし、日本人は少ないだろうと思っていたが、どっこい大勢の人が集まり、氷点下の寒さを吹き飛ばす熱い応援を繰り広げた。ワーキングホリデーで渡豪している日本の若者は1万人を超えるそうで、国籍に関係なくあちこちで交流する彼らを見ていて、せっかくの国際大会、日本のライオンズもかくありたしの思いを抱いた。（すずき）

●国際大会にはパレードや本会議の他にセミナーなど多彩な催しがあるが、その一つが「オープニングアイズ」。通常はスペシャルオリンピックス競技会で行うプログラムだが、毎年の国際大会でも知的障害のある人に眼の検査をして眼鏡を配布する。検査に集中してもらうのは難しく、ボランティア・スタッフはさまざまに工夫を凝らしている。処方された眼鏡をかけて鏡を見た少年は、「クール！」と満面の笑み。スタッフもつられて笑顔。会場は温かい空気で満ちていた。（かわむら）

●訂正とお詫び

7月号「編集室」（57ページ）で、佐々木公穂委員の所属クラブ名は、正しくは中泊ライオンズクラブでした。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

6/15 東京恵比寿 荘 英隆
6/15 東京世田谷 進藤 義夫
6/15 千葉県市川 吉原 稔貴
6/15 千葉県野田 髙木 次雄
6/15 兵庫県神戸みなと 団 英男
6/23 香川県善通寺 原 卓二

2010年9月号予告

THEME **食と健康**

健康で丈夫な身体を作るのは、日々の食事から。身体によいと言われている食材の産地を訪ね、生産、収穫の現場を取材すると共に、産地の人々がその食材をどのように食しているのかをリポートする。和の鉄人として知られる道場六三郎氏の対談も収録。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

シドニー国際大会に参加して――奉仕無限――

ライオン誌
日本語版委員
◉
林静誠
（千葉県・船橋中央）

シドニー国際大会は6月29日のインターナショナル・パレードで開幕。日本のパレードはとても華やかで、特に女性グループの笑顔と歌声に沿道を埋めた観覧者の拍手はひときわ大きく響きました。

私はこの大会に特別の気持ちを持って参加しました。昨年1月、冬の冷たいハドソン川にエンジン停止状態の旅客機を不時着させて155人の命を守り、「ハドソン川の奇跡」と言われた元機長、チェズレー・サレンバーガー氏の講演で、そのリーダーシップにじかに触れられる機会だったからです。

ところで、この大会前の6月13日深夜、祝福すべき大事件がありました。オーストラリア中南部ウーメラ砂漠に小惑星探査機「はやぶさ」のカプセルが落下し回収されたのです。「はやぶさ」は7年前、小惑星イトカワに向けて打ち上げられましたが、トラブルが続き、3年半遅れで60億キロに及ぶ宇宙の旅から帰還しました。この計画を率いてきた川口淳一郎教授は、絶望的状況を乗り越えたチームの執念と知恵、そしてチームワークの結果だと語っております。

サレンバーガー元機長は講演で、学んできたすべてを動員し、冷静な判断と技術を駆使した乗務員と関係機関それぞれのチームの協力が勝利の結果を生んだと話しました。そして「チームが協力すれば出来ないことはほとんど無い」と力強く述べられました。

この二つの事柄に共通しているのは、チーム全員がそれぞれにリーダーシップを発揮し「あきらめなかった」ことだと思います。

ヴィルフス国際会長は講演を終えたサレンバーガー氏に入会を薦め、その胸にライオンバッジが輝くと、会場は歓喜に包まれました。

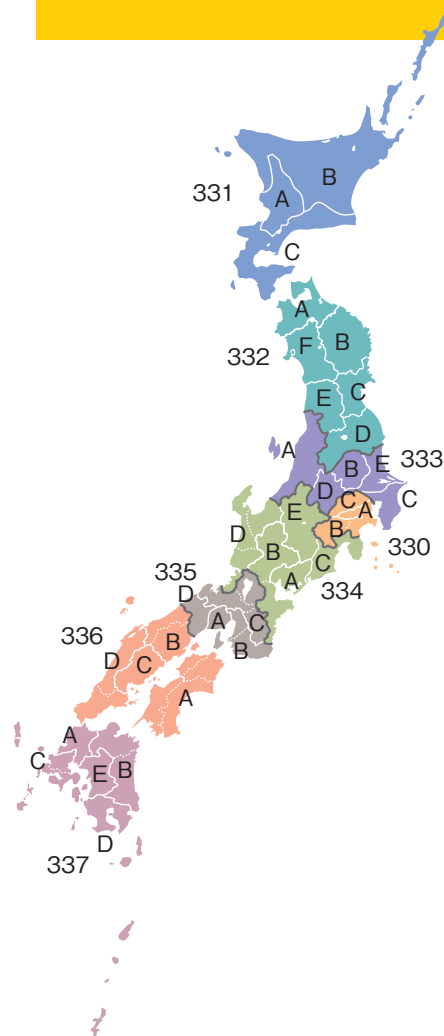
私が皆さんに伝えたいことは、奉仕は無限であり、多くの人たちにライオニズムのすばらしさを共有するように、あきらめないで呼び掛けることです。

「この世の最大の不幸は貧しさや病ではない。むしろ誰からも自分は必要とされていないと自らが感じることである」マザー・テレサ

日本のライオンズ

2010.6.30　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	会員数増減
330-A	東京	198	5,134	4,437	697	-306
330-B	神奈川·山梨·東京	180	5,076	4,537	539	-119
330-C	埼玉	101	2,620	2,333	287	-9
330	計	479	12,830	11,307	1,523	-434
331-A	北海道（道央）	76	2,585	2,412	173	-52
331-B	北海道（道北·道東）	91	2,541	2,433	108	-48
331-C	北海道（道南）	56	1,818	1,646	172	-24
331	計	223	6,944	6,491	453	-124
332-A	青森	66	1,759	1,620	139	-88
332-B	岩手	54	2,137	1,544	593	28
332-C	宮城	77	1,424	1,314	110	-53
332-D	福島	78	2,015	1,840	175	-26
332-E	山形	58	1,847	1,670	177	-35
332-F	秋田	51	1,318	1,103	215	-33
332	計	384	10,500	9,091	1,409	-207
333-A	新潟	78	2,807	2,596	211	-78
333-B	栃木	59	1,589	1,183	406	185
333-C	千葉	135	3,511	2,966	545	-15
333-D	群馬	54	2,056	1,750	306	-83
333-E	茨城	80	2,886	2,604	282	-50
333	計	406	12,849	11,099	1,750	-41
334-A	愛知	120	5,336	4,843	493	-227
334-B	岐阜·三重	84	3,690	3,392	298	-135
334-C	静岡	84	3,199	3,084	115	-47
334-D	富山·石川·福井	98	3,974	3,744	230	-128
334-E	長野	53	2,063	1,895	168	-62
334	計	439	18,262	16,958	1,304	-599
335-A	兵庫（東）	101	2,570	2,226	344	-196
335-B	大阪·和歌山	196	5,898	5,263	635	-369
335-C	滋賀·京都·奈良	121	4,024	3,734	290	-155
335-D	兵庫（西）	68	2,104	1,892	212	-18
335	計	486	14,596	13,115	1,481	-738
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	154	5,742	5,122	620	-162
336-B	鳥取·岡山	96	3,158	2,885	273	-144
336-C	広島	103	3,587	3,397	190	-207
336-D	島根·山口	102	3,258	3,044	214	-57
336	計	455	15,745	14,448	1,297	-570
337-A	福岡·長崎	117	4,469	3,990	479	-67
337-B	大分·宮崎	77	2,320	2,177	143	-94
337-C	佐賀·長崎	84	2,977	2,584	393	-8
337-D	鹿児島·沖縄	81	2,457	2,258	199	-12
337-E	熊本	56	1,609	1,460	149	-12
337	計	415	13,832	12,469	1,363	-193
総計		3,287	105,558	94,978	10,580	-2,906
世界のライオンズの		7.1%	7.9%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2010.6.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	206
世界のクラブ数	46,168
世界の会員数	1,338,803
期首からの増減	19,873

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,702	369,073	-4,883
インド	5,878	195,124	19,659
韓国	2,062	83,285	320

ライオン誌8月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可
2010年(平成22年)7月20日発行　毎月1回20日発行
定価180円
送料実費76円
第53巻第2号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい!

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml